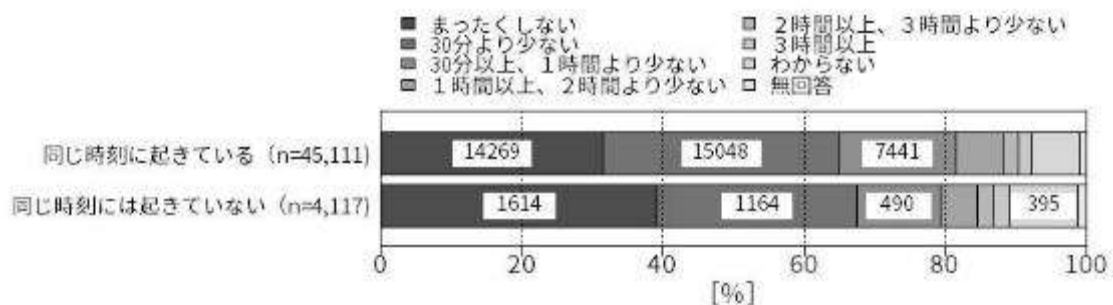


起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票 問2×子ども票 問19）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

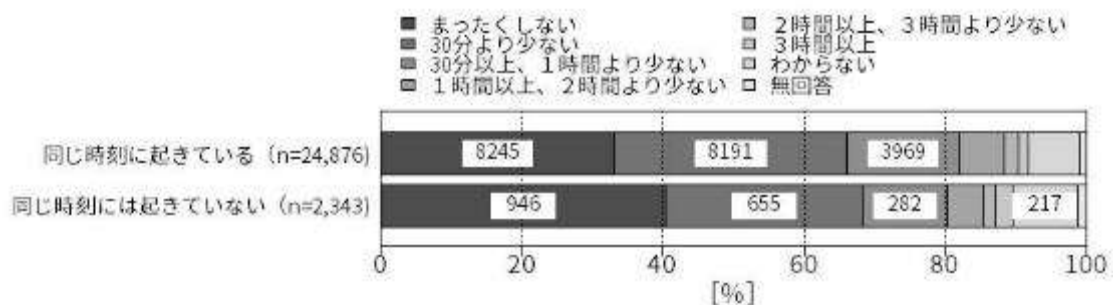
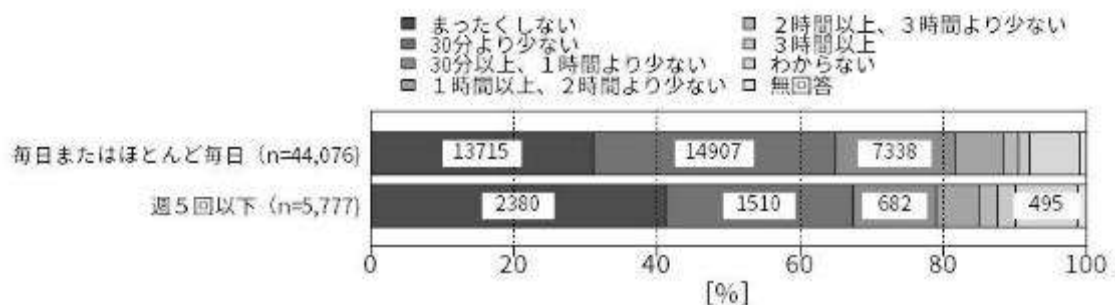


図 230. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、「同じ時刻に起きている」子どもの方が、「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した人の割合が高い。「同じ時刻には起きていない」子どもでは、「まったくしない」と回答した人は40.4%と割合が高い。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

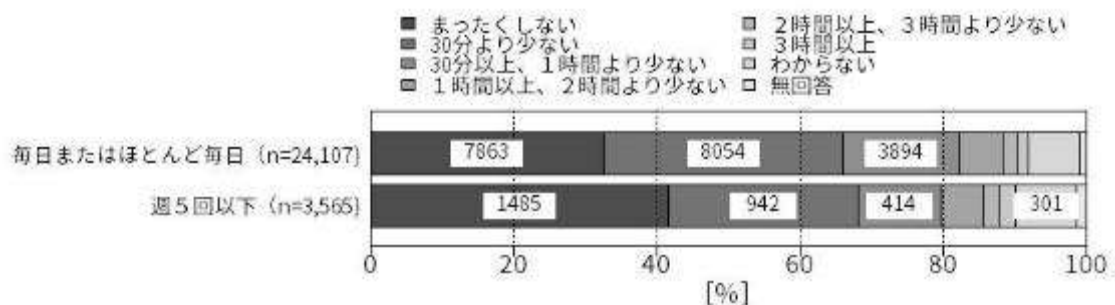


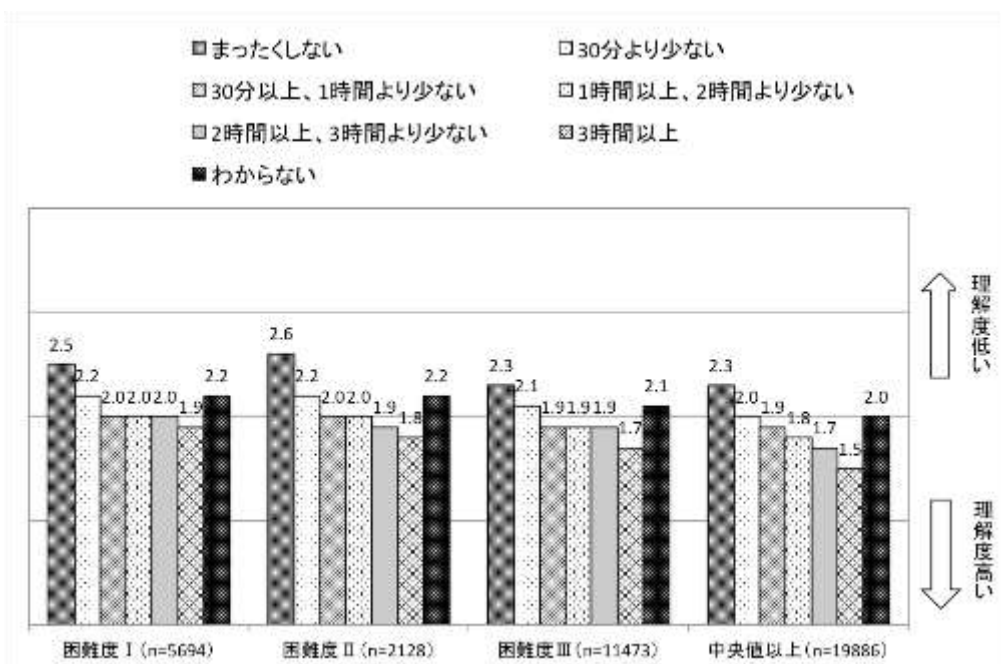
図 231. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「まったくしない」と回答したのは 33.4%であり「週5回以下」の子どもよりも少ない。また、同じく「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる子どもでは、「30分以上、1時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と回答した子どもはそれぞれ 16.2%、6.3%であり、「週5回以下」朝食をとる子どもよりも割合が高い。

困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連（子ども票 問 18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

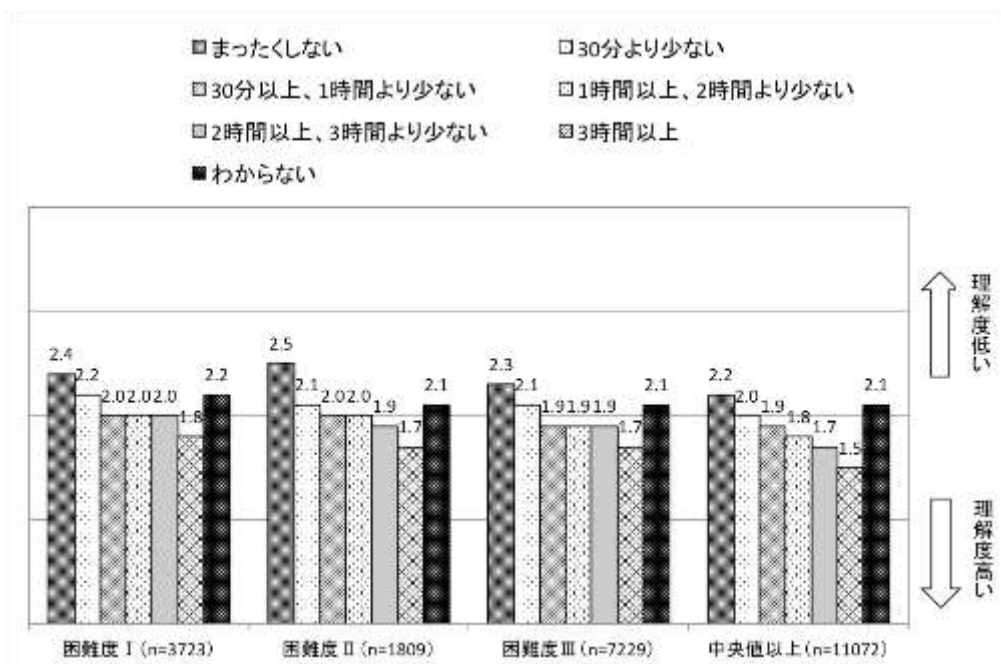


図 232. 困窮度別に見た、授業以外の勉強時間と学習理解度の関連

同じ勉強時間であっても、困窮度が高まるにつれ学習理解度が低くなっている。また、中央値以上群においては勉強時間が長い方が理解度が高い結果になっている。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（子ども票 問 9×
保護者票 問 14(1)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

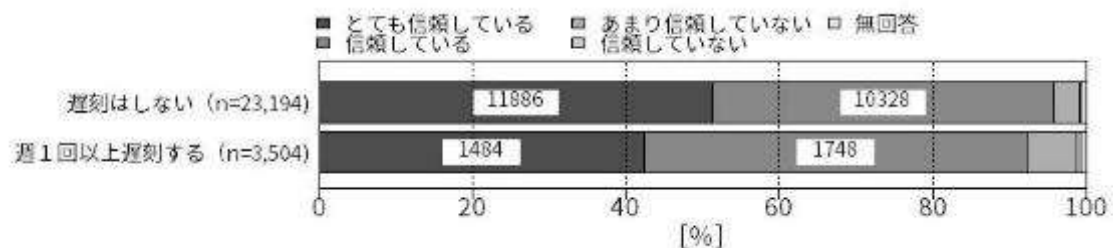


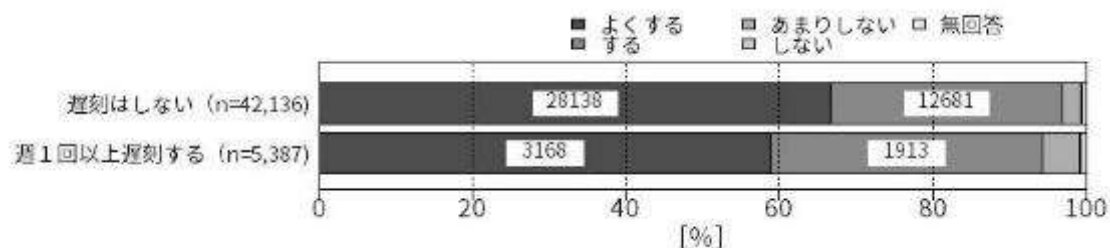
図 233. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

ここでは、子ども票問 9 において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週 1 回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は「とても信頼している」割合が高く、51.2%である。「週 1 回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は「あまり信頼していない」割合が高く、6.5%である。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（子ども票 問 9×保護者票 問 14(2)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

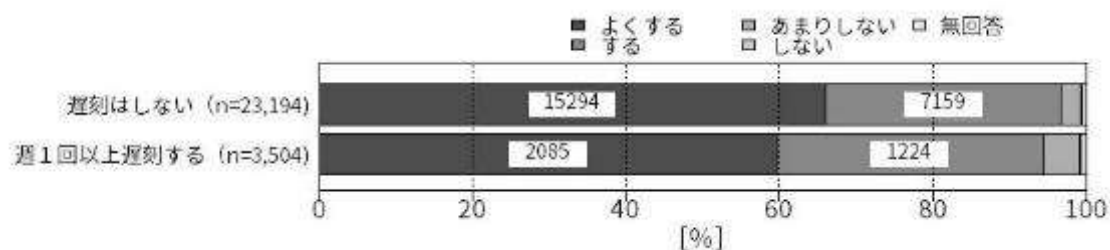


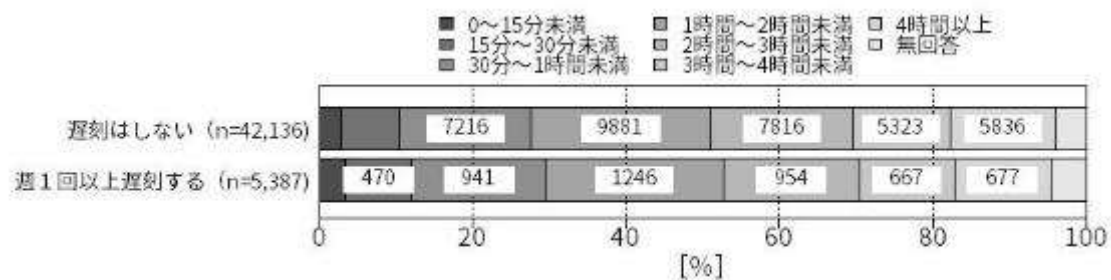
図 234. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

ここでは、子ども票問9において「遅刻はしない」と回答した子どもを「遅刻はしない」、それ以外を選択した子ども（無回答除く）を「週1回以上遅刻する」としている。

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は会話を「よくする」割合が高く、65.9%である。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、保護者は会話を「あまりしない」割合が高く、4.7%である。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））（子ども票 問9×保護者票 問14(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

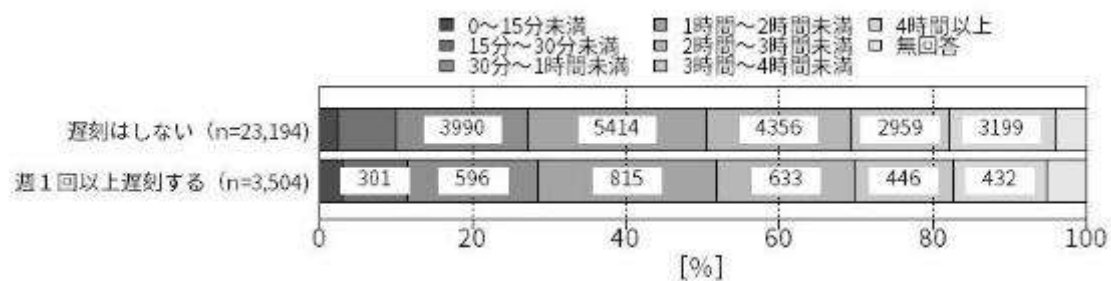


図 235. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、大きな差は見られなかった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））（子ども票 問9×保護者票 問14(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

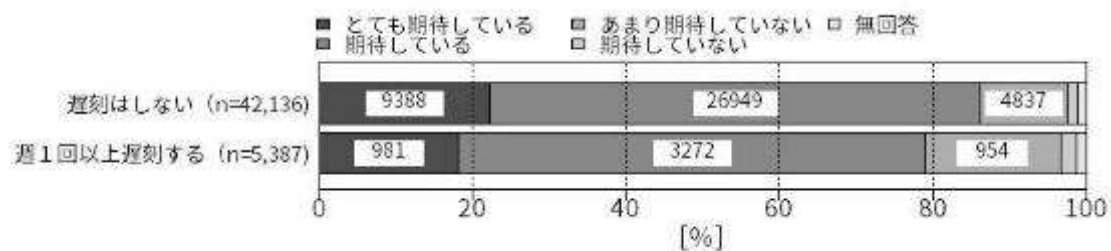


図 236. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、大きな差は見られなかった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）（子ども票 問 9×保護者票 問 14(4)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

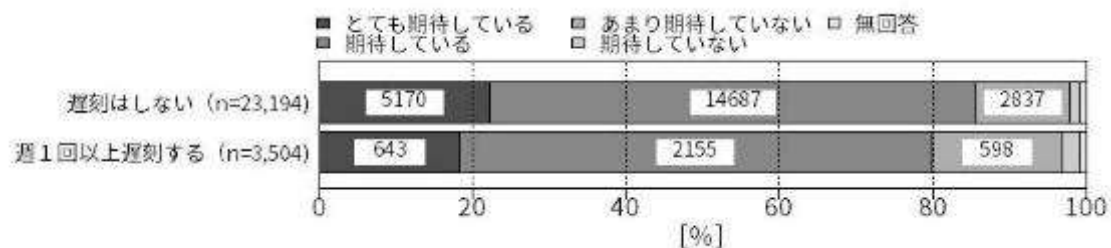
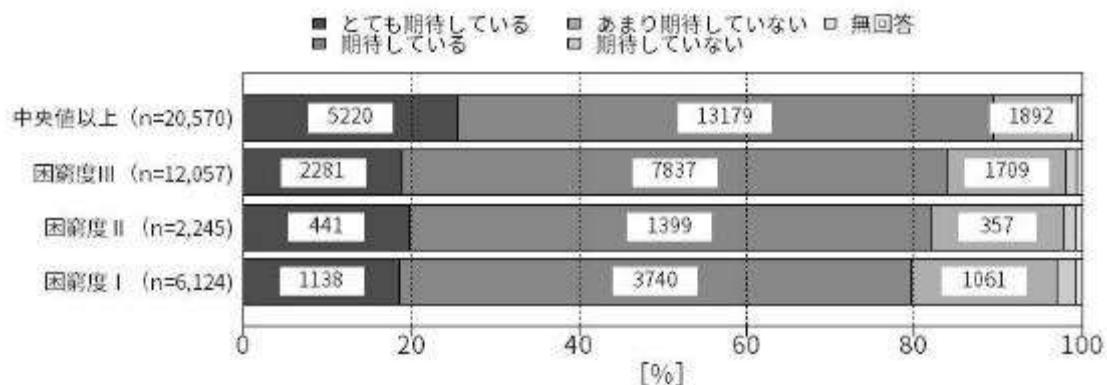


図 237. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「遅刻はしない」子どもにおいては、保護者は子どもの将来に「とても期待している」割合が高く、22.3%である。「週1回以上遅刻する」子どもにおいては、「期待していない」割合が高く、22.3%である。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）（保護者票 問 14(4)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

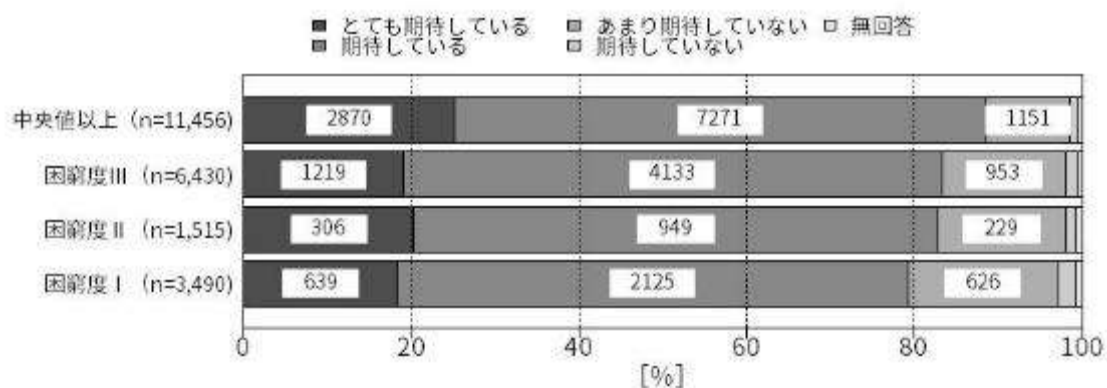
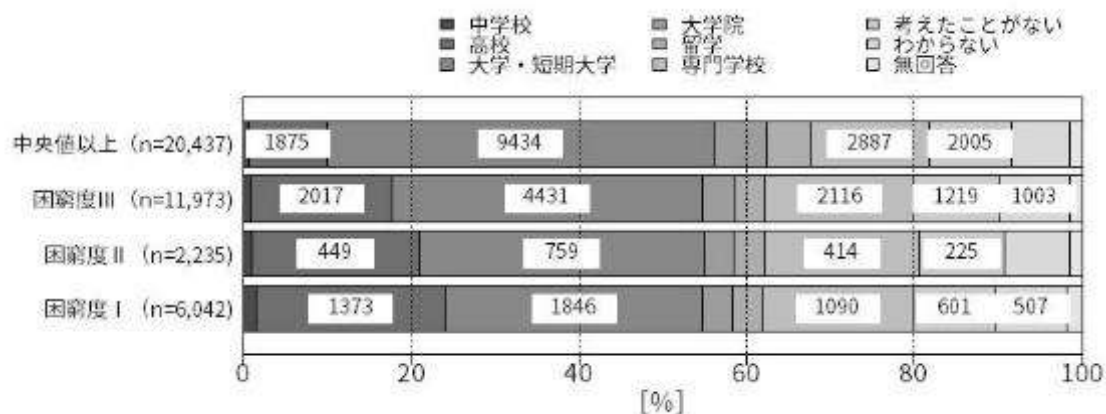


図 238. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」が増えている。困窮度Ⅰ群では、「あまり期待していない」「期待していない」を合計すると 20.0%である。

困窮度別に見た、子どもの希望する進学先（子ども票 問 27）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

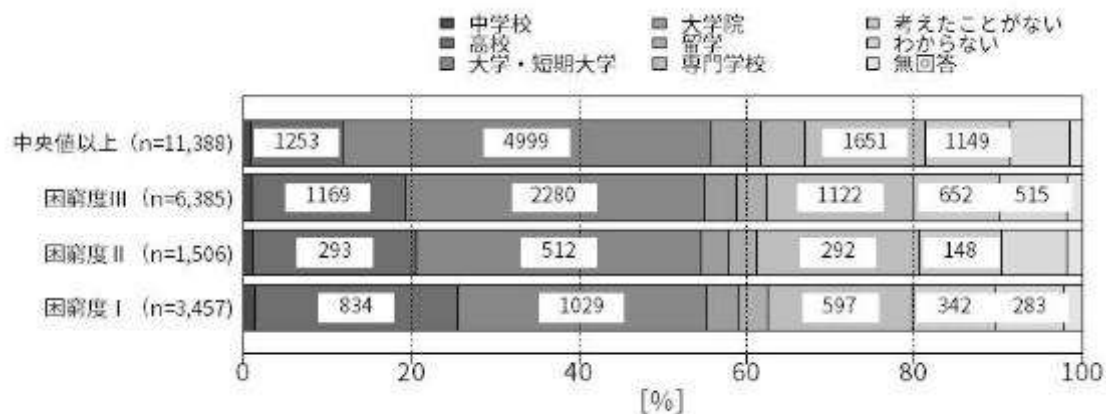
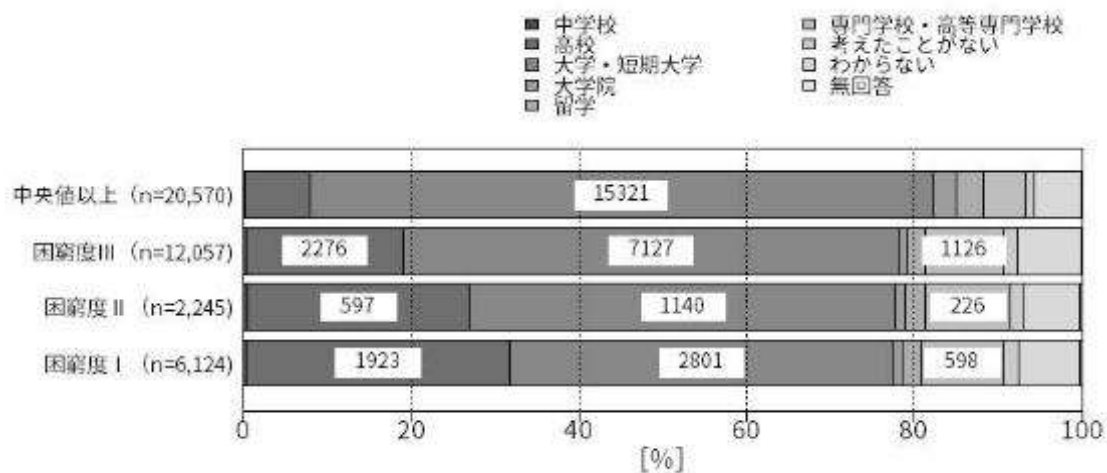


図 239. 困窮度別に見た、子どもの希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計 25.4%、「専門学校」と回答した子どもは 17.3%である。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は高く、43.9%である。

困窮度別に見た、子どもの進学予測（保護者票 問 15）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

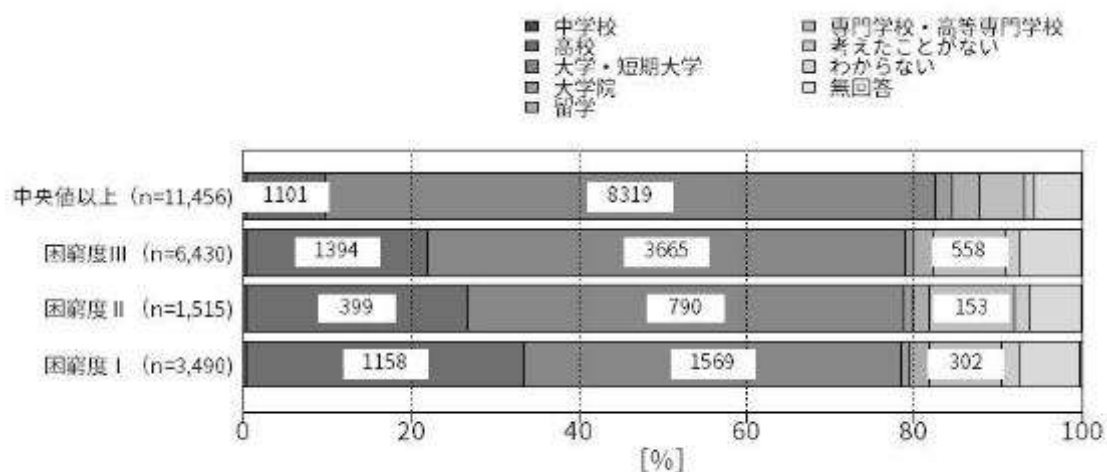
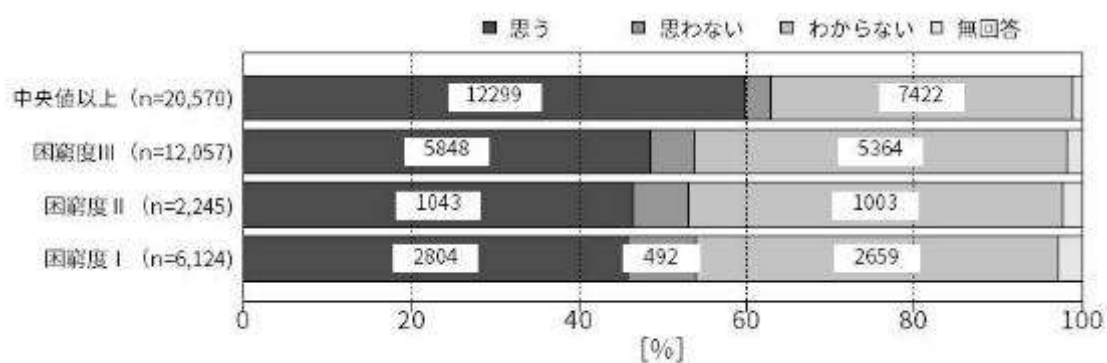


図 240. 困窮度別に見た、子どもの進学予測

困窮度別に子どもの進学予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合と「専門学校」と回答した子どもの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「中学校」「高校」と回答した人は合計 33.5%、「専門学校」と回答した人は 8.7%である。中央値以上群において「大学・短期大学」と回答した割合は高く、72.6%である。

困窮度別に見た、子どもの進学達成予測（保護者票 問 16）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

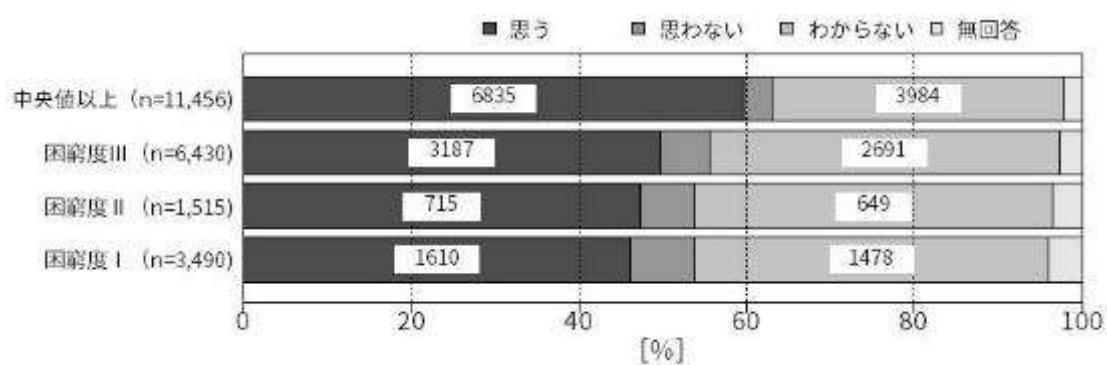
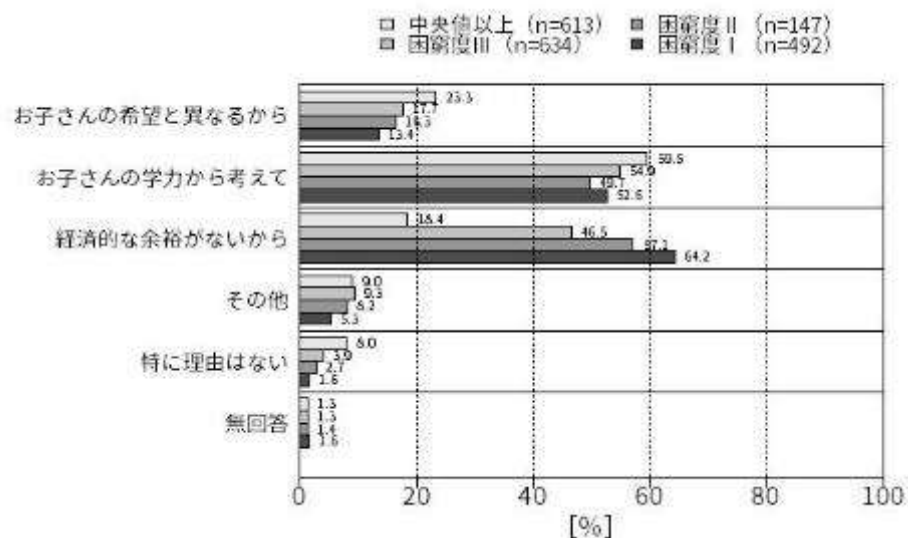


図 241. 困窮度別に見た、子どもの進学達成予測

困窮度別に子どもの進学達成予測（保護者による）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「思わない」と回答した保護者の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「思わない」と回答した人は合計 7.6%である。中央値以上群において「思う」と回答した割合は他に比べて高く、59.7%である。

困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由（保護者票 問 17）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

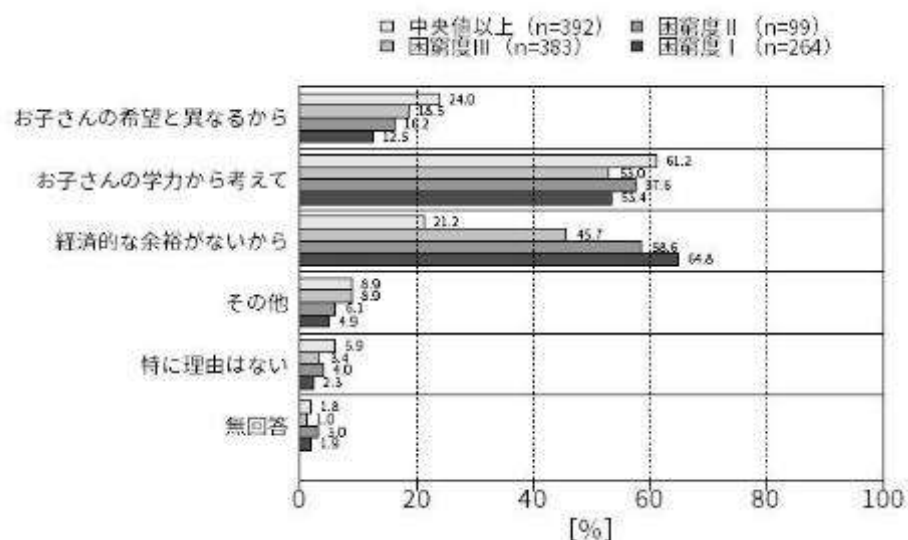
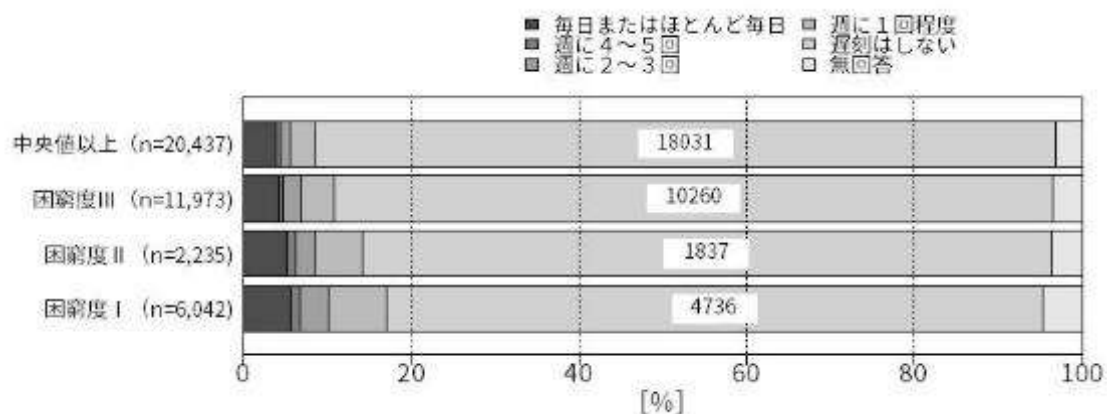


図 242. 困窮度別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

困窮度別に子どもの進学達成「思わない」理由（保護者による）を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群とで最も差が大きいのは、困窮度Ⅰ群において「経済的な余裕がないから」と回答した人は64.8%（中央値以上群に対して、3.1倍）である。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票 問 9）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

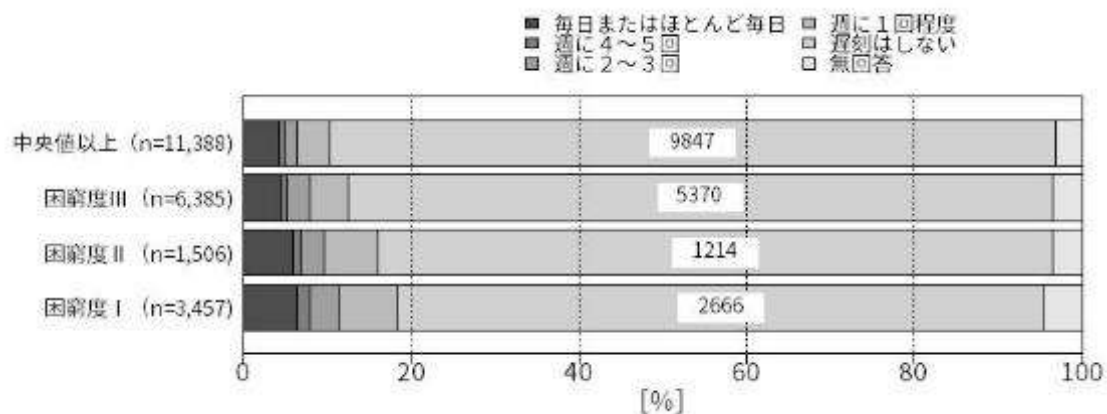
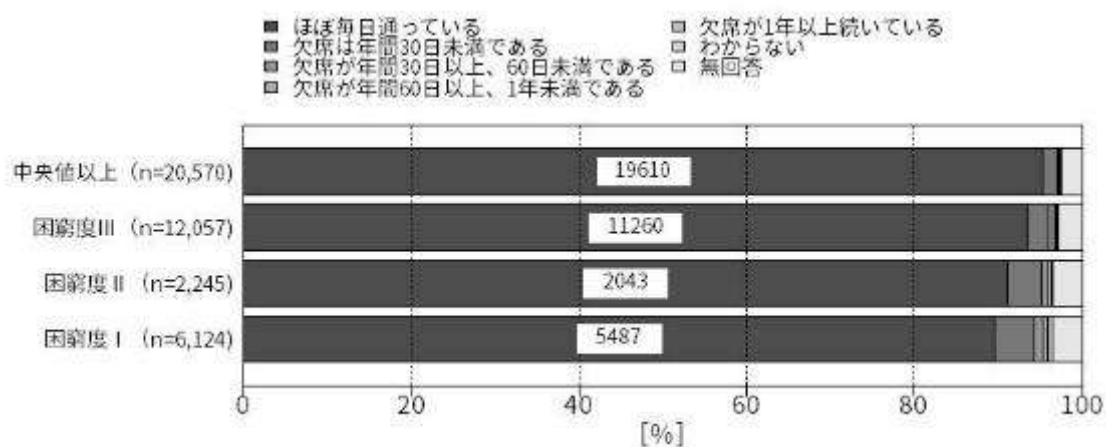


図 243. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増える。困窮度Ⅰ群では、週に1回以上遅刻をする割合は18.4%である。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票 問 21）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

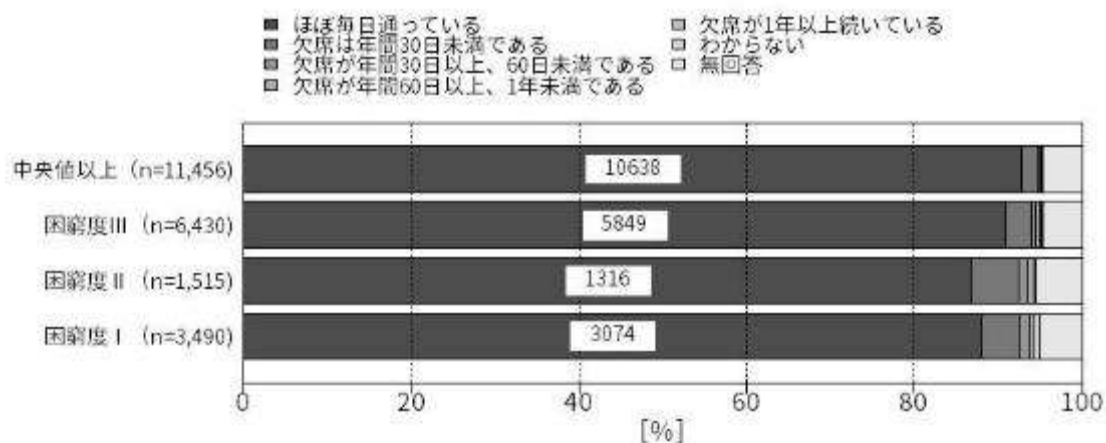
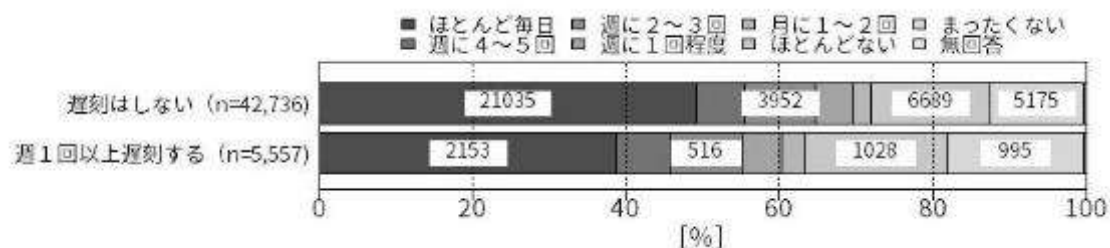


図 244. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、中央値以上群・困窮度Ⅲ群と、困窮度Ⅱ群・困窮度Ⅰ群との間で「ほぼ毎日通っている」に差が見られる。困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群では、年間30日以上欠席している割合は1.6%、1.8%である。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）（子ども票 問9×子ども票 問10①）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>



図 245. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が低く、39.7%である。また、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合が高く、合計すると36.3%である。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）（子ども票 問9×子ども票 問10②）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

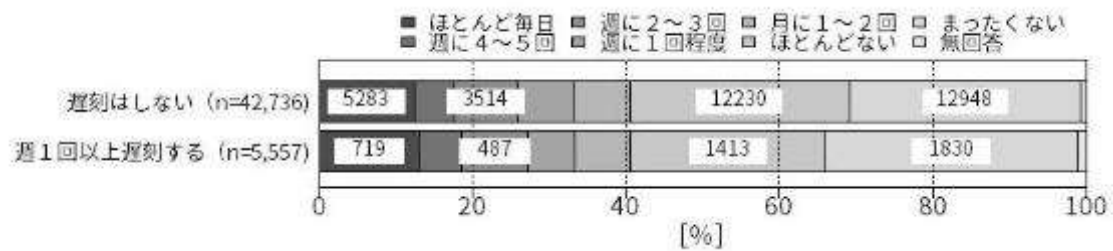


図 246. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が低く、75.2%である。また、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合が高く、合計すると5.1%である。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（子ども票 問 9×子ども票 問 10⑤）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

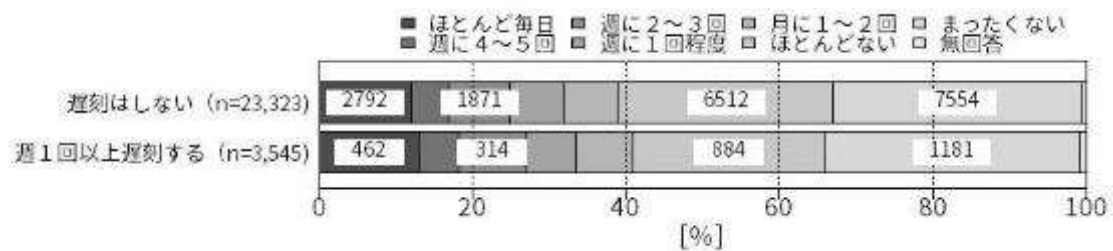
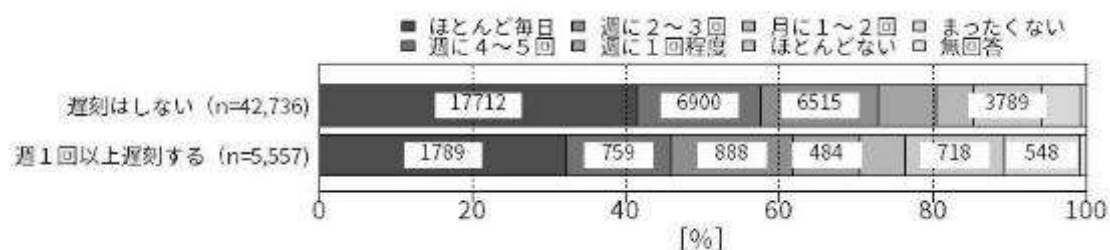


図 247. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、大きな差は見られなかった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）
 （子ども票 問 9×子ども票 問 10⑥）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

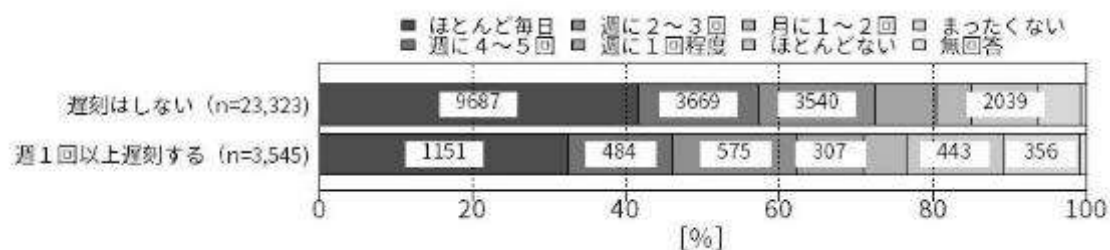


図 248. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんどない」「まったくない」と回答した割合が高く、合計すると 22.5%である。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）（子ども票 問9×子ども票 問10⑦）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>



図 249. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、大きな差は見られなかった。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）（子ども票 問9×子ども票 問10⑧）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

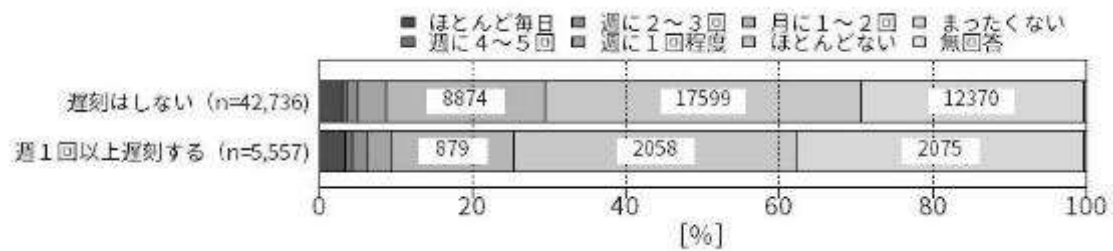


図 250. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「まったくない」と回答した割合が高く、19.4%である。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
 （子ども票 問 9×子ども票 問 10⑨）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

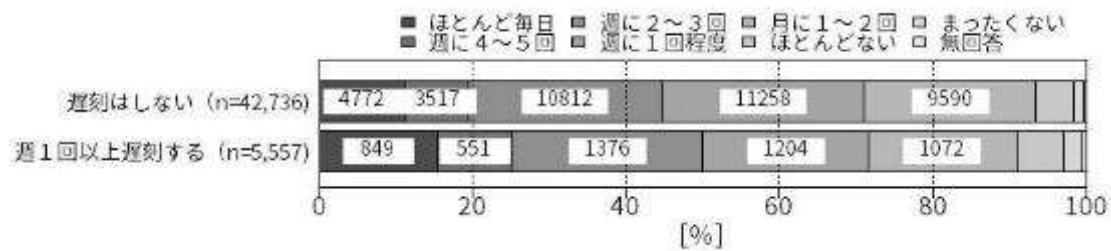


図 251. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「まったくない」と回答した割合が高く、37.7%である。

学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）
 （子ども票 問 9×子ども票 問 10⑩）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

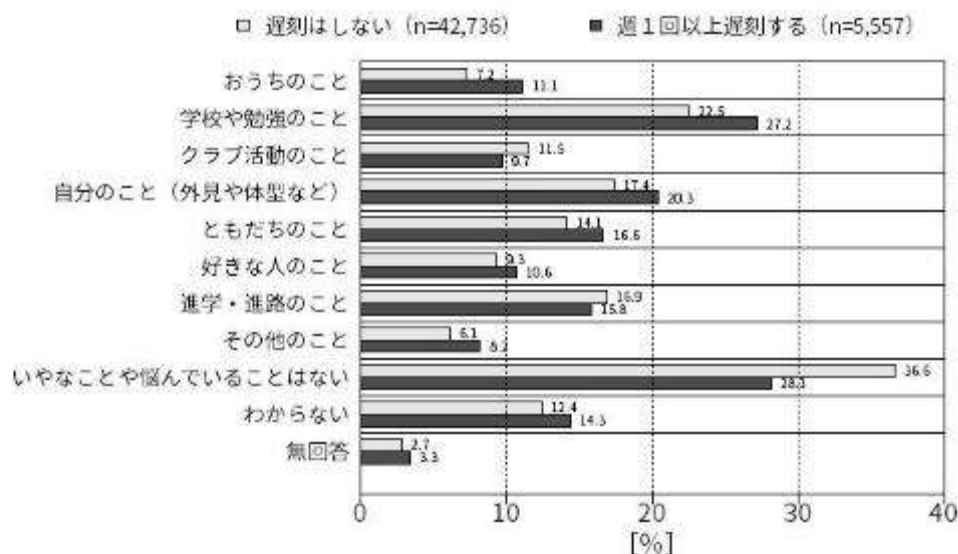


図 252. 学校への遅刻別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）

学校への遅刻別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、「ほとんど毎日」と回答した割合が高く、15.4%である。

学校への遅刻別に見た、悩んでいること（子ども票 問9×子ども票 問21）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

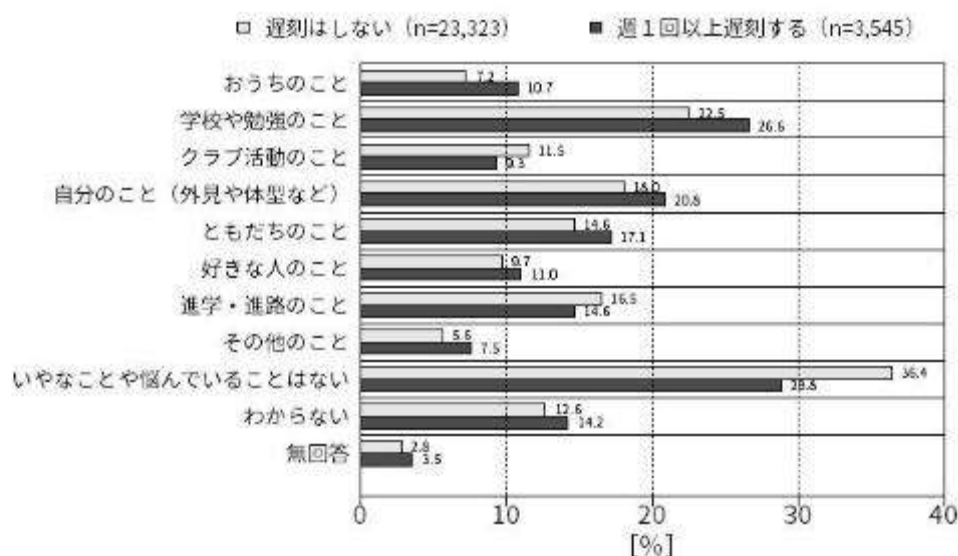
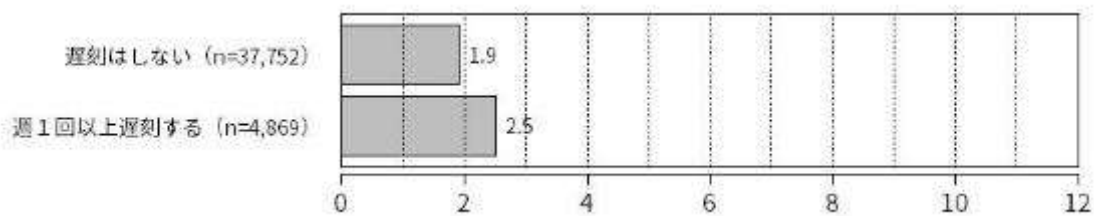


図 253. 学校への遅刻別に見た、悩んでいること

学校への遅刻別に子どもが悩んでいることを見ると、「週1回以上遅刻する」子どもの方が「遅刻はしない」子どもよりも、「自分のこと（外見や体型など）」では2.8ポイント、「おうちのこと」では3.5ポイント、「学校や勉強のこと」では4.1ポイント、回答した割合が高い。また、「遅刻はしない」子どもにおいては、「いやなことや悩んでいることはない」と回答した割合が36.4%に上った。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当数（子ども票 問9×子ども票 問24）

<大阪府内全自治体>



<大阪市24区>

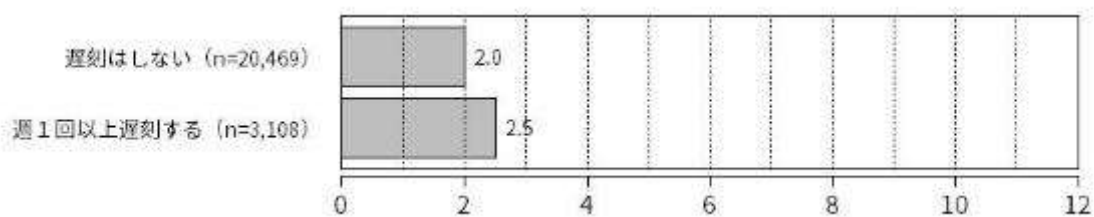


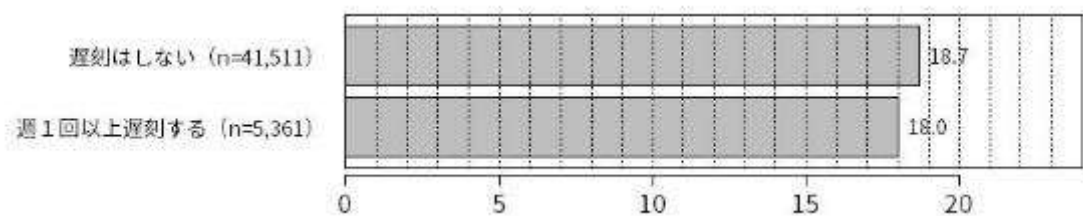
図 254. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当数

学校への遅刻別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは、自分の体や気持ちで気になることが平均2.5個該当している。

学校への遅刻別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問9×子ども票 問26 (1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

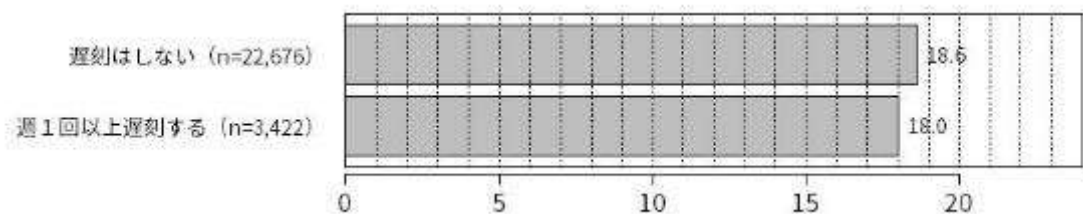
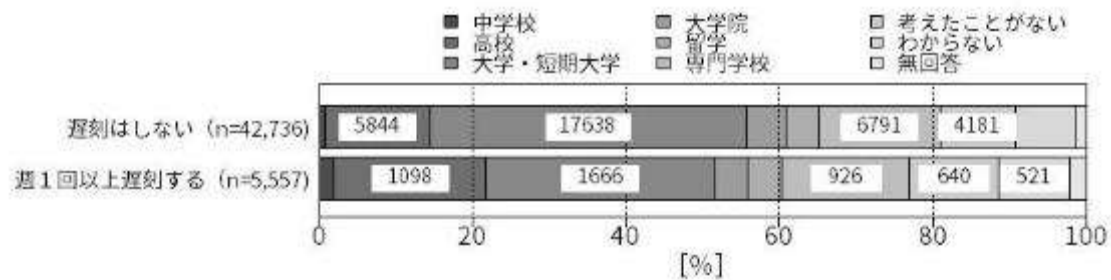


図 255. 学校への遅刻別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票 問 9×子ども票 問 27）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

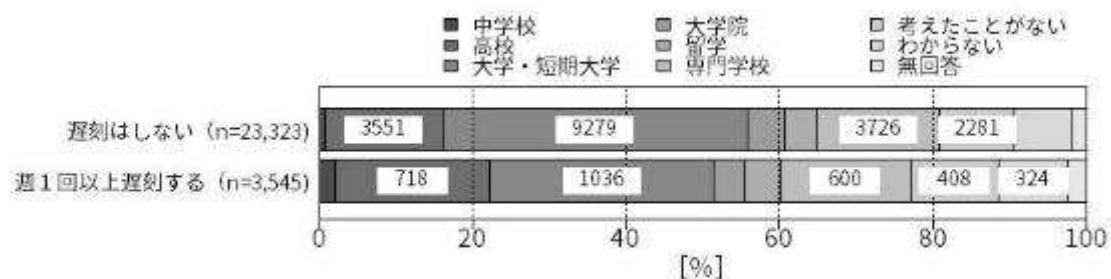


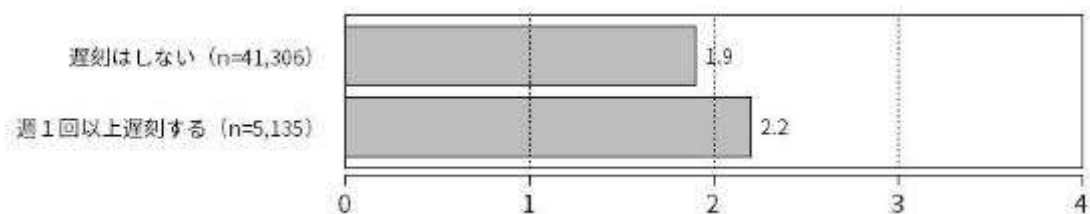
図 256. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に子どもの希望する進学先を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは「中学校」「高校」と回答した割合が高く、合計すると 22.3%である。「遅刻はしない」子どもは、「大学・短期大学」と回答した割合が高く、39.8%である。

学校への遅刻別に見た、学習理解度（子ども票 問9×子ども票 問18）

※学習理解度について、「1. よくわかる」～「4. ほとんどわからない」まで4項目で評定させた。数値が低いほど、学習理解度が高いことを表す。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

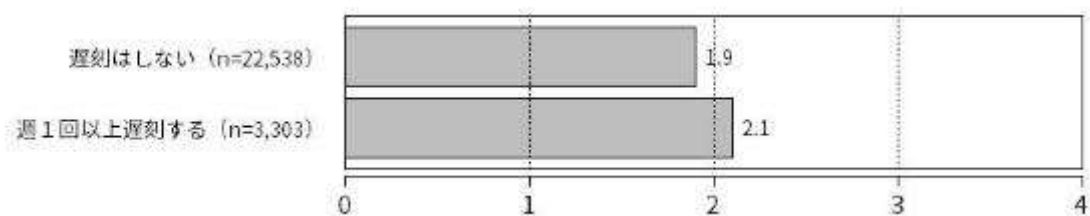
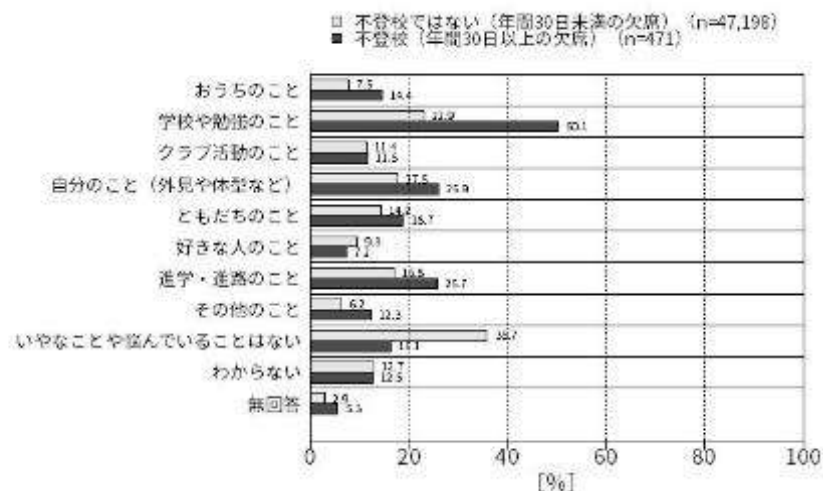


図 257. 学校への遅刻別に見た、学習理解度

学校への遅刻別に子どもの学習理解度を見ると、「週1回以上遅刻する」子どもは「遅刻はしない」子どもよりも学習理解度が低い。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

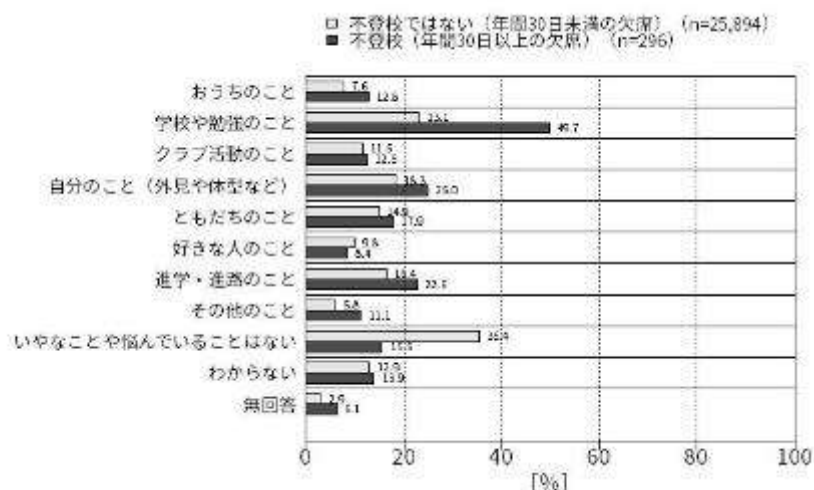


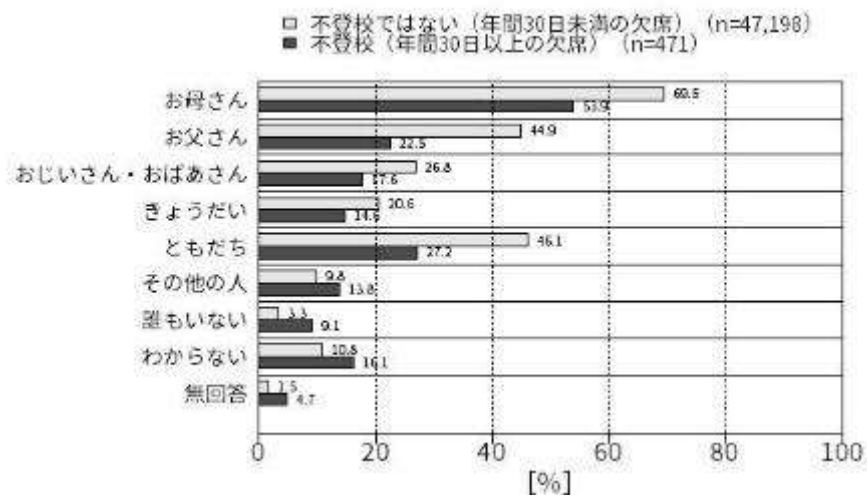
図 258. 登校状況別に見た、悩んでいること

ここでは、保護者票問 18 において「ほぼ毎日通っている」「欠席は年間 30 日未満である」を「不登校ではない」、「欠席が年間 30 日以上、60 日未満である」「欠席が年間 60 日以上、1 年未満である」「欠席が 1 年以上続いている」を「不登校」としている。

登校状況別に子どもの悩んでいることを見ると、「学校や勉強のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 2.2 倍、「その他のこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.9 倍、「おうちのこと」に悩んでいる子どもは「不登校」において「不登校ではない」の 1.7 倍となっている。また、「不登校でない」子どもでは、「いやなことや悩んでいることはない」に該当するのは 35.4%であった。

登校状況別に見た、「悩んだときの対処をしてくれる人」（保護者票 問 21×子ども票 問 23⑥）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

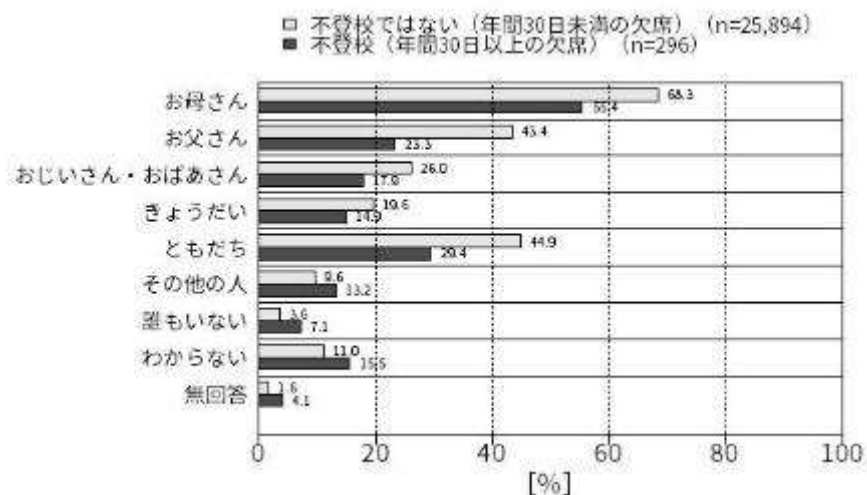
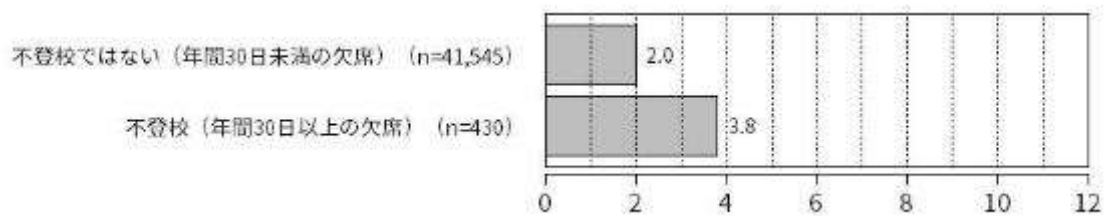


図 259. 登校状況別に見た、「悩んだときの対処をしてくれる人」

登校状況別に子どもの「悩んだときの対処をしてくれる人」が「いない」割合に着目すると、「不登校」では 7.1%であり、「不登校ではない」子どもの 2.0 倍である。

登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当数（保護者票 問 21×子ども票 問 24）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

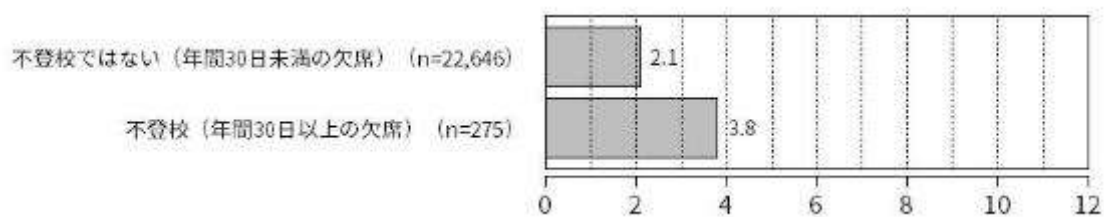


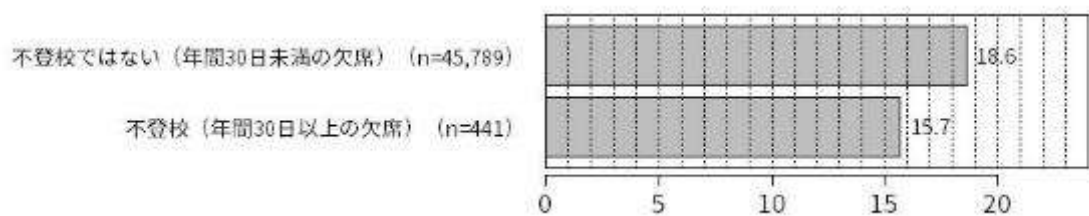
図 260. 登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当数

登校状況別に子どもの自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「不登校」では平均 3.8 個であり、「不登校ではない」子どもの約 1.8 倍である。

登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（保護者票 問 21×子ども票 問 26 (1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

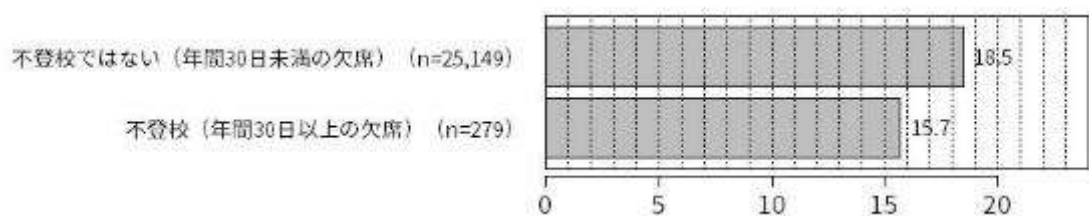
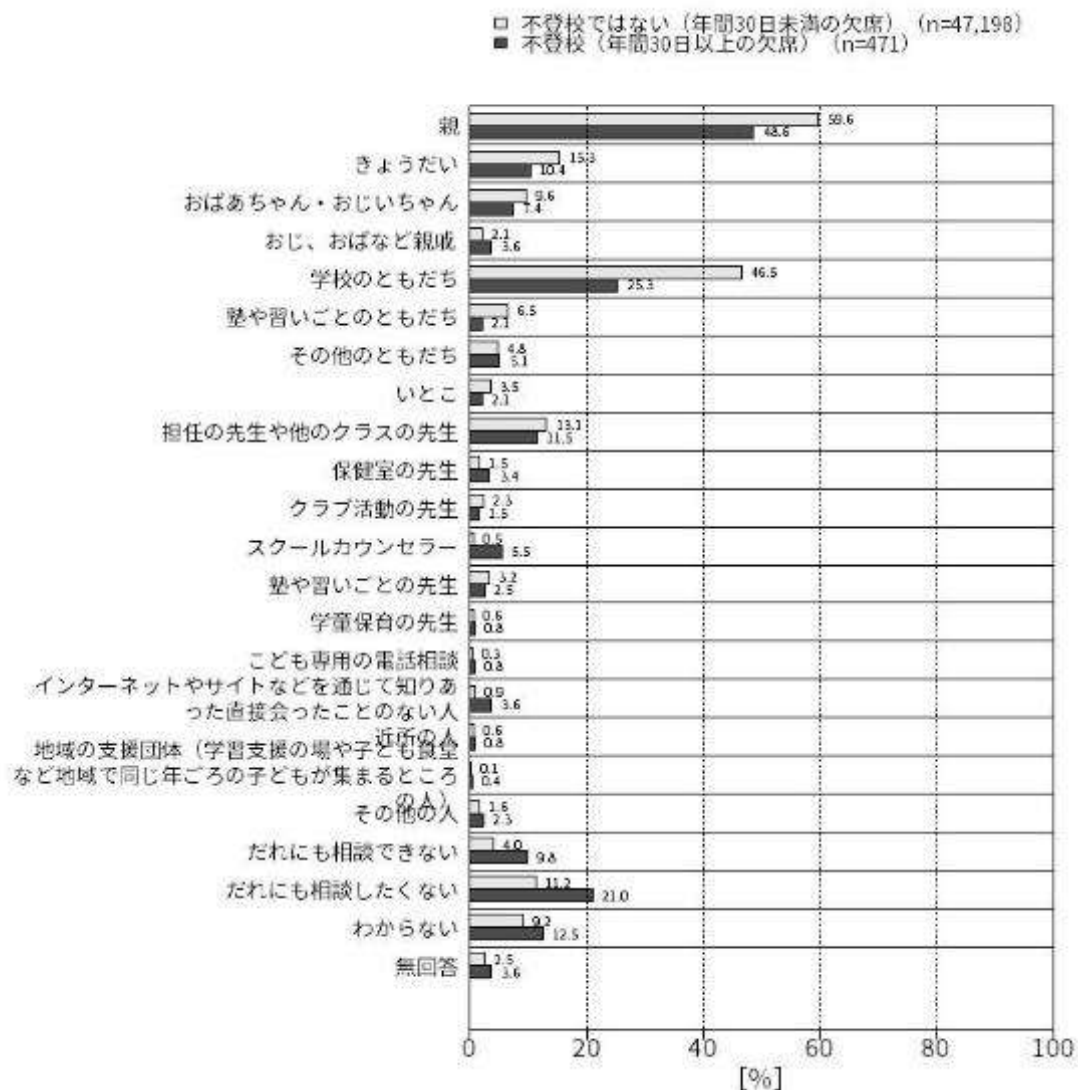


図 261. 登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

登校状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「不登校」では平均 15.7 点であり、「不登校ではない」子どもよりも約 3 点低い。

登校状況別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 21×子ども票 問 22）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

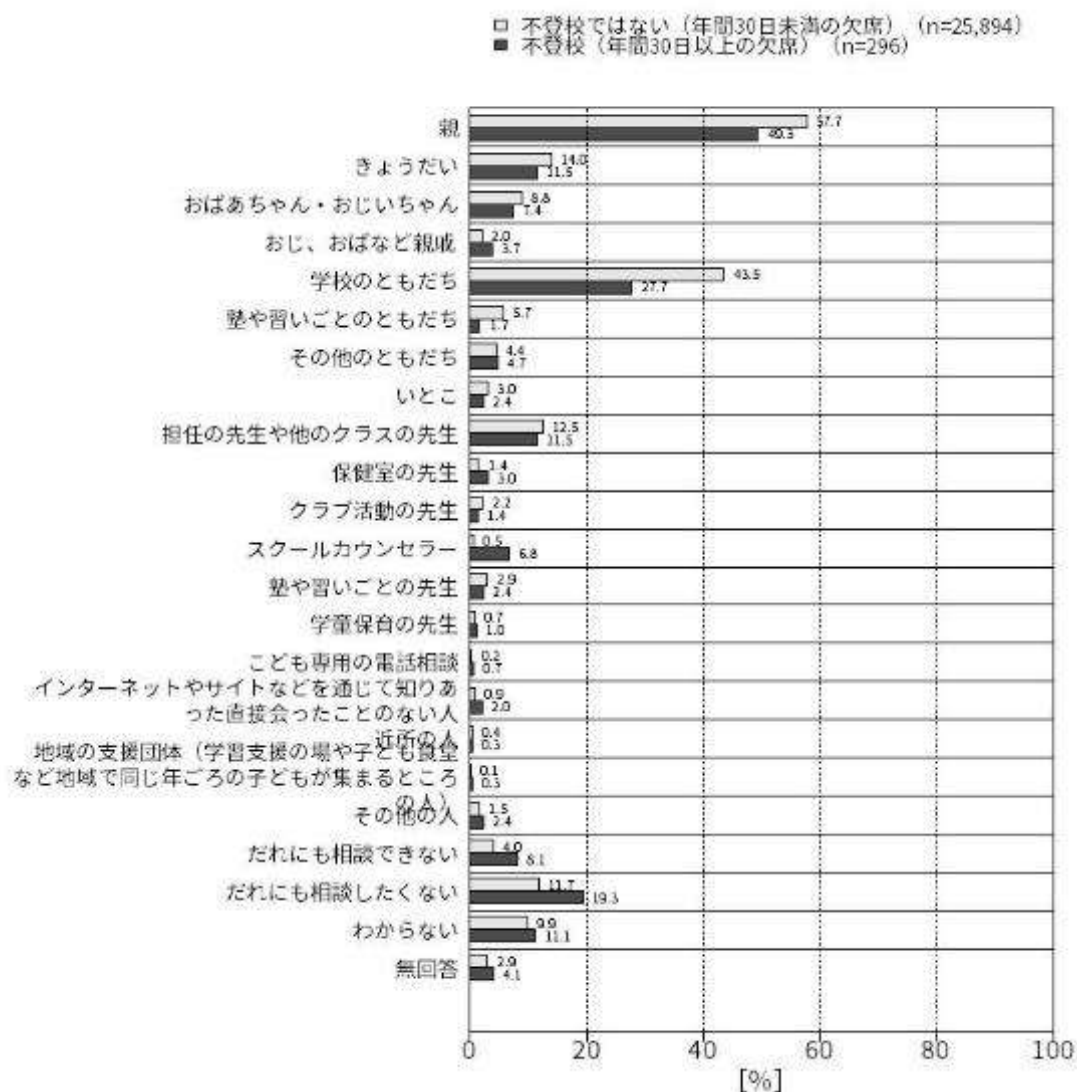
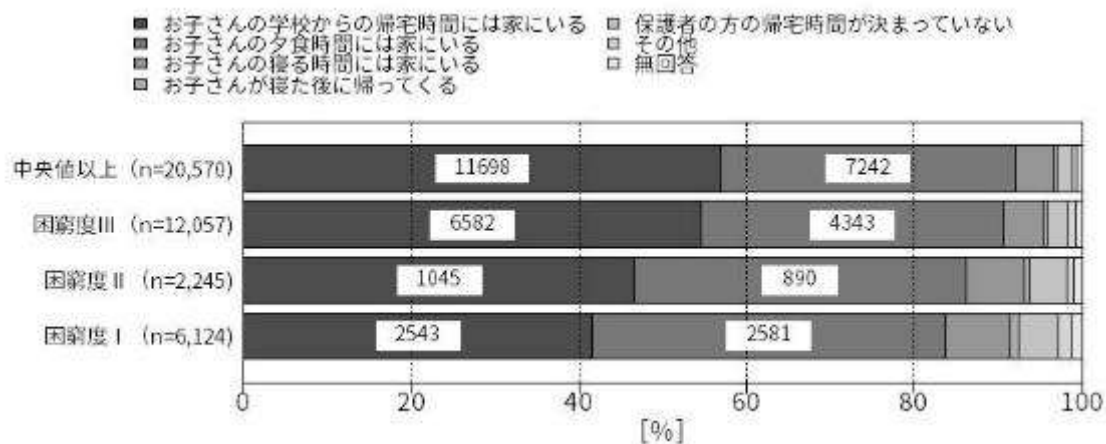


図 262. 登校状況別に見た、困ったときの相談先

登校状況別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「不登校」と「不登校でない」で差が大きい項目に着目しながら、「不登校」の数値を挙げると、「スクールカウンセラー」6.8%（中央値以上群に対して、13.6 倍）、「子ども専用の電話相談」0.7%（3.5 倍）、「地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人）」0.3%（3 倍）となっている。

困窮度別に見た、保護者の在宅時間（保護者票 問 10）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

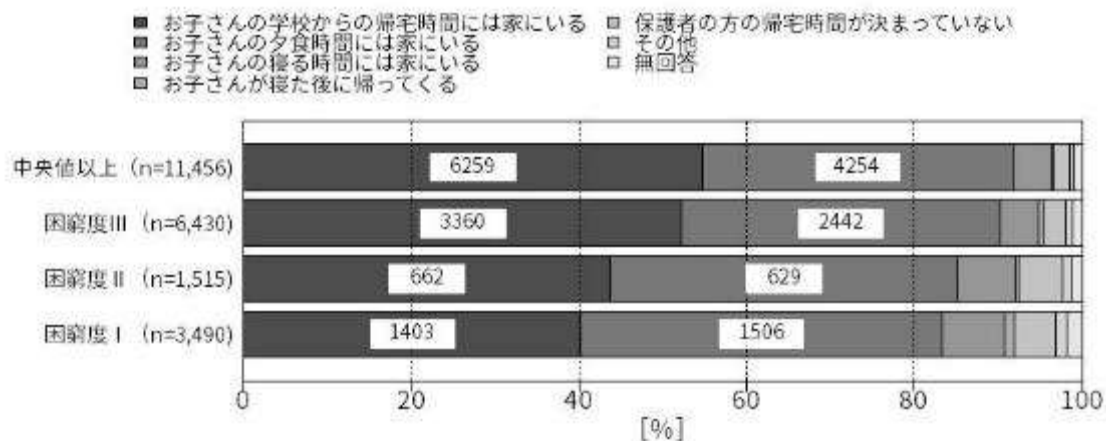
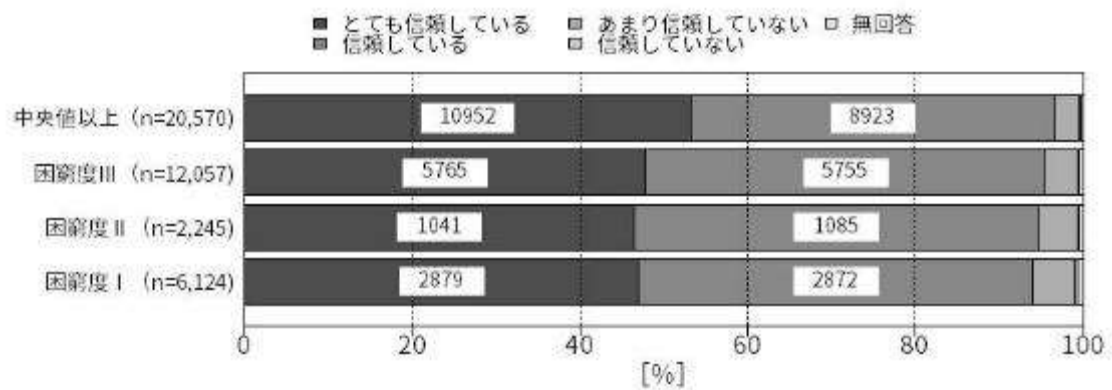


図 263. 困窮度別に見た、保護者の在宅時間

困窮度別に保護者の在宅時間を見ると、中央値以上群・困窮度Ⅲ群の方が、困窮度Ⅱ群・困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」と回答した割合が高い。また、困窮度Ⅰ群では「お子さんの寝る時間には家にいる」と回答した割合が高く、7.3%である。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票 問 14(1)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

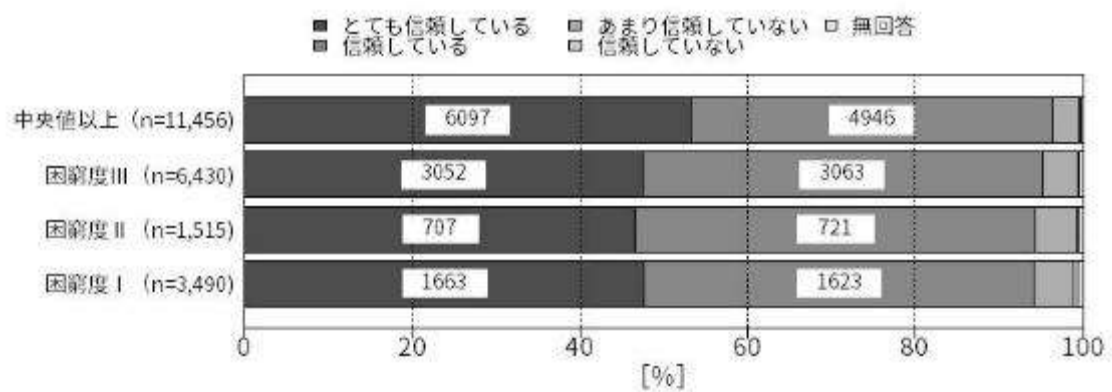
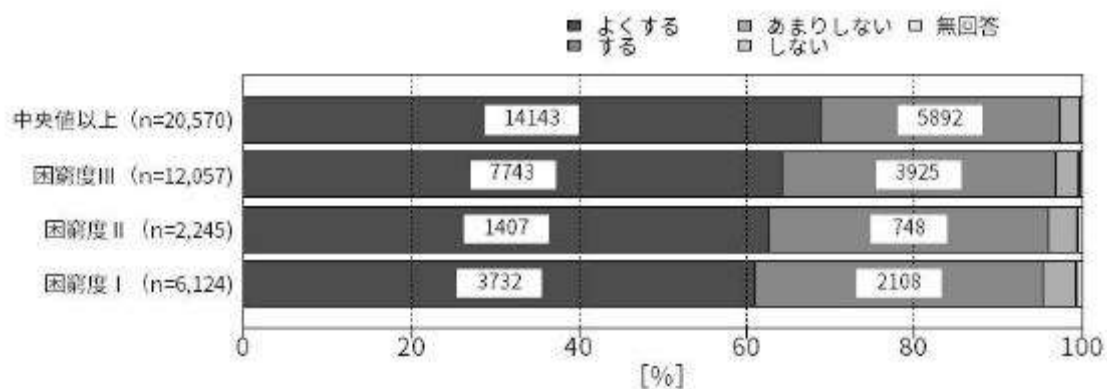


図 264. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、中央値以上群では他に比べて「とても信賴している」と回答した割合が高く、53.2%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票 問 14(2)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

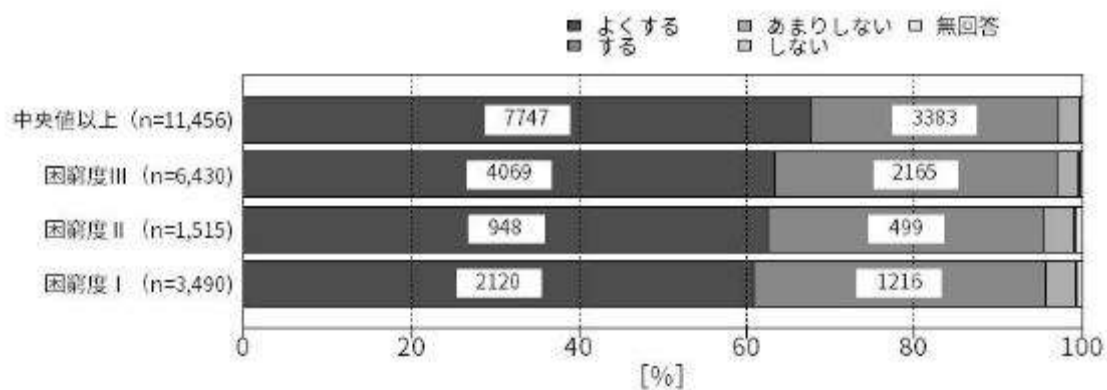
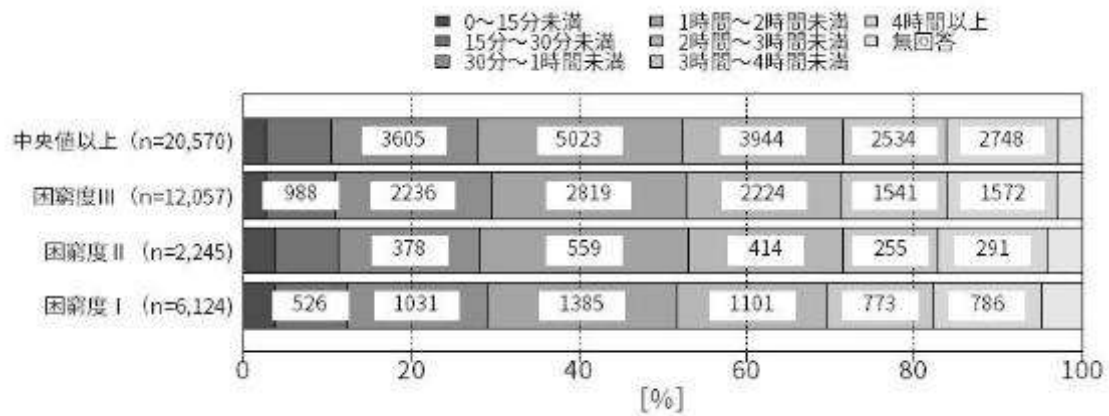


図 265. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、困窮度Ⅰ群では「よくする」と回答した割合が低く、60.7%である。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））（保護者票問 14(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

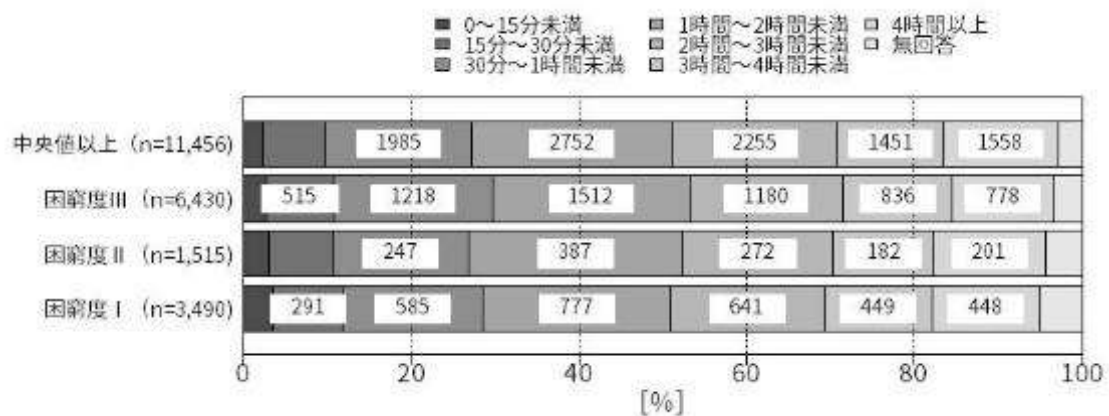
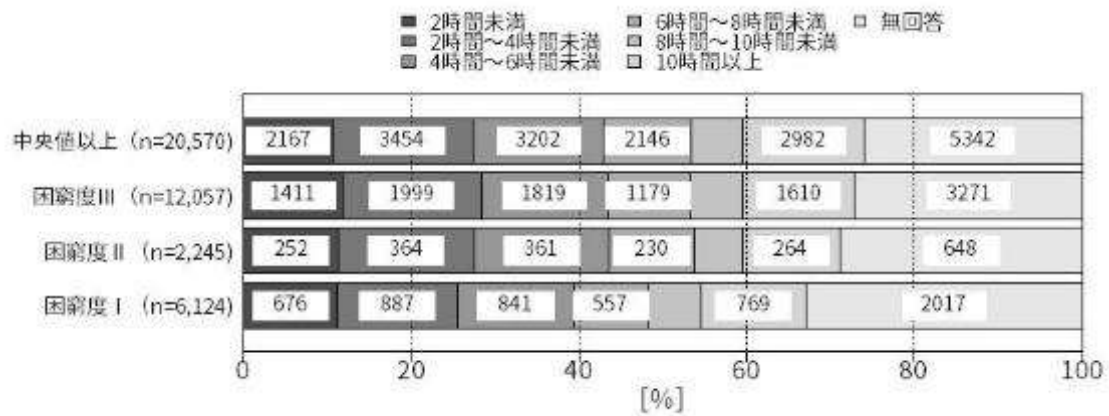


図 266. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（平日））を見ると、大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））（保護者票問 14(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

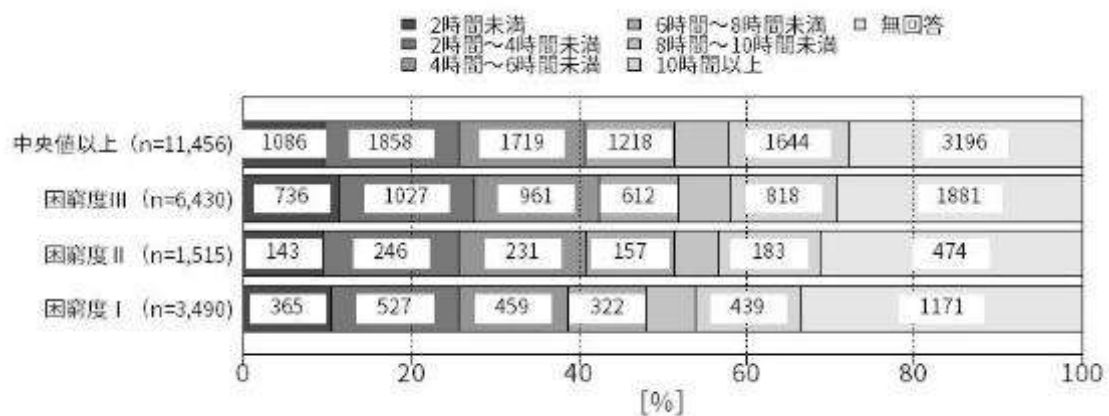
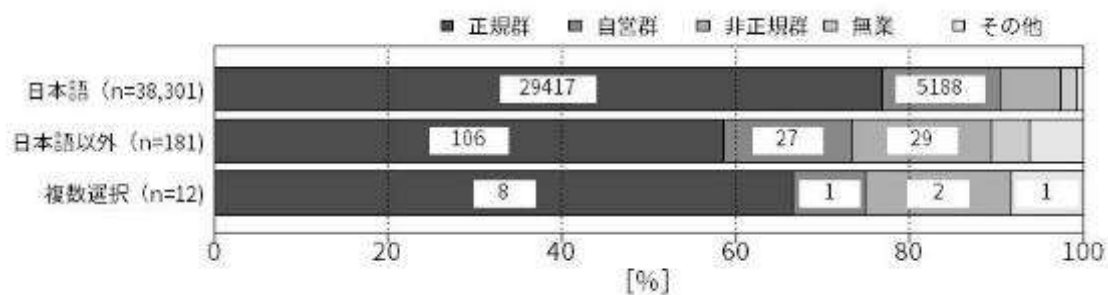


図 267. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、大きな差は見られなかったが、困窮度が高まるにつれて無回答の割合が高くなっていた。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

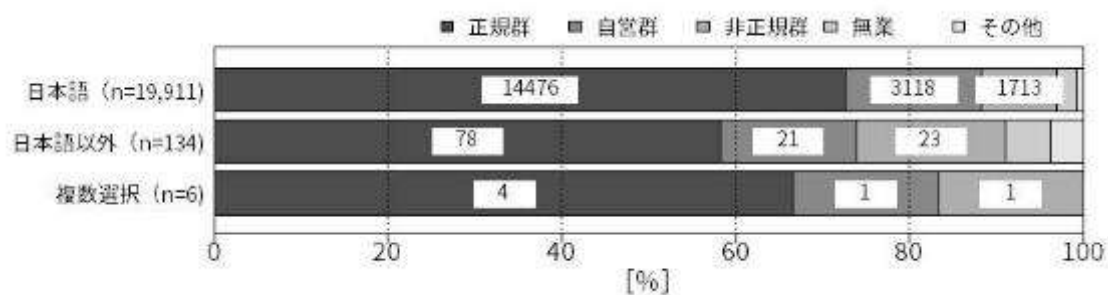
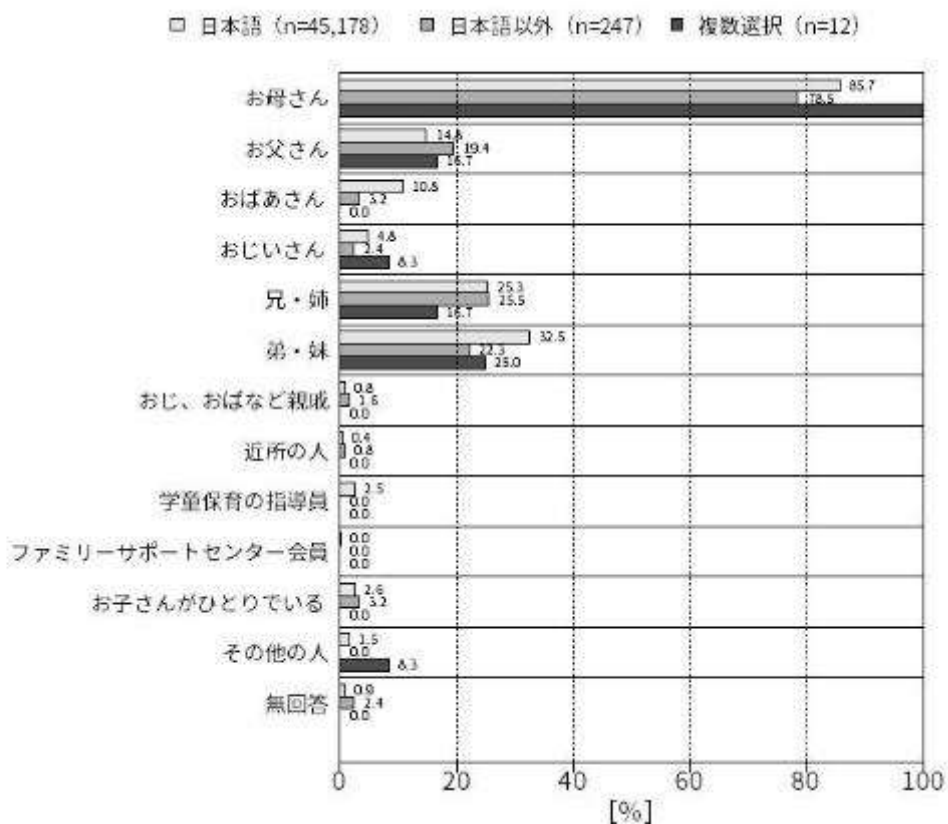


図 268. 日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況

日本語を母語としない場合、非正規群が 17.2%、無業が 5.2%であるのに対し、日本語を母語とする場合はそれぞれ 8.6%と 2.3%である。日常生活で複数の言語を使用する人は、非正規群が 16.7%である。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問2×保護者票 問11）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

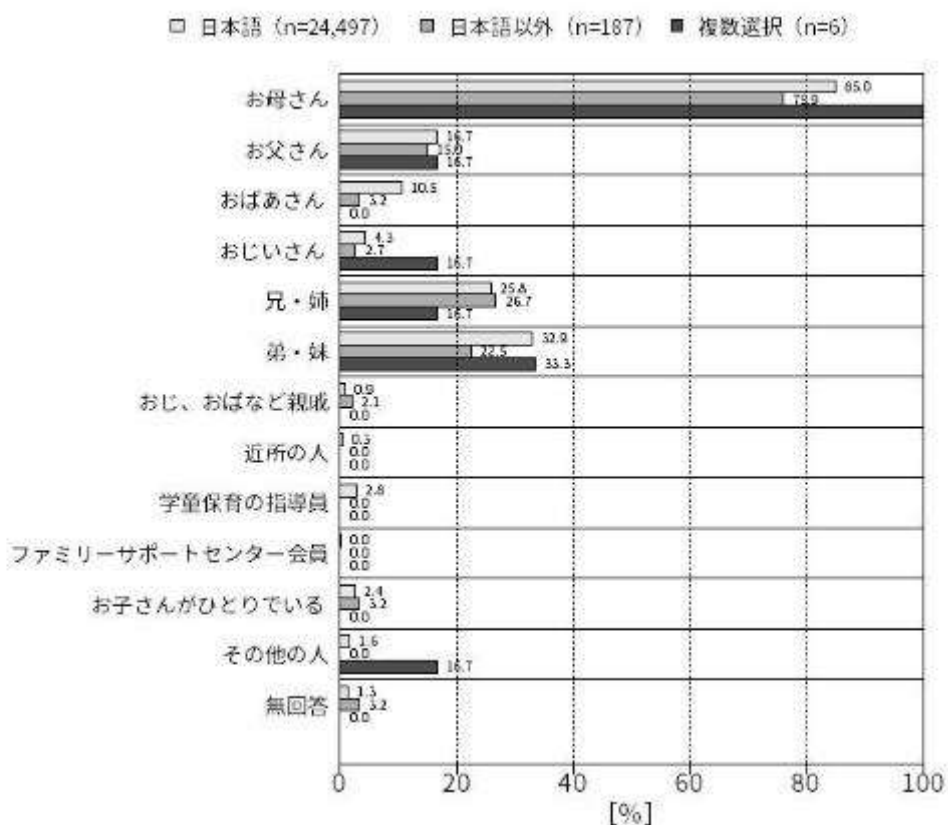
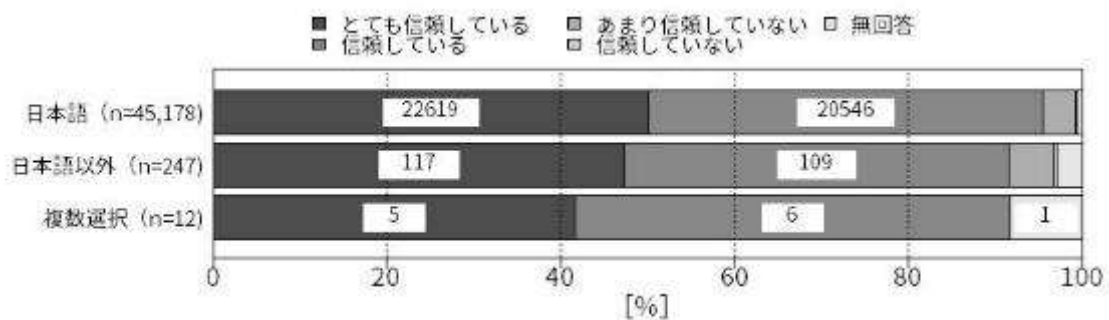


図 269. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

日本語を母語としない人の方が、日本語を母語とする人と比べて、子どもと過ごす時間が長い人を「お母さん」と回答した割合が 75.9%と低くなっている。日常生活で複数の言語を使用する人は、「お母さん」が 100%である。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票 問2×保護者票 問14(1)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

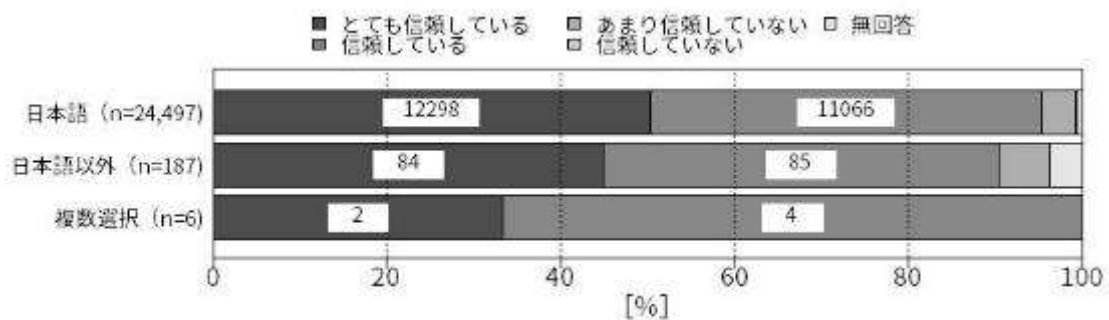
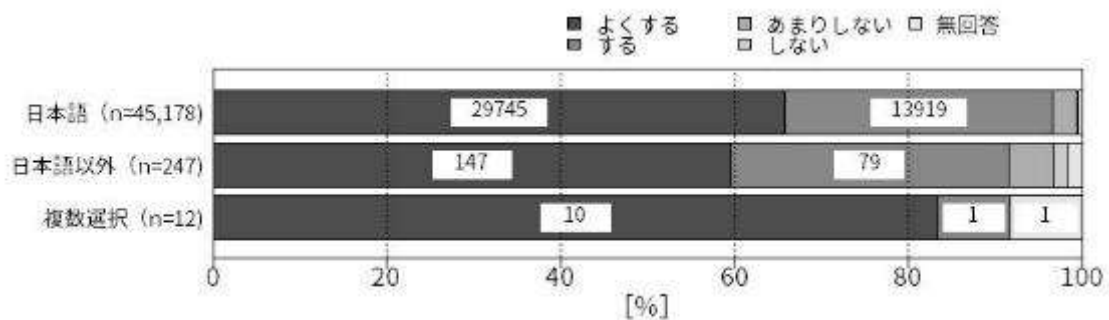


図 270. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

日本語を母語としない場合、子どもを「とても信頼している」と回答した割合が 44.9%であるのに対し、日本語を母語とする場合では 50.2%、日常生活で複数の言語を使用する場合では 33.3%である。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票
問 2×保護者票 問 14(2))

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

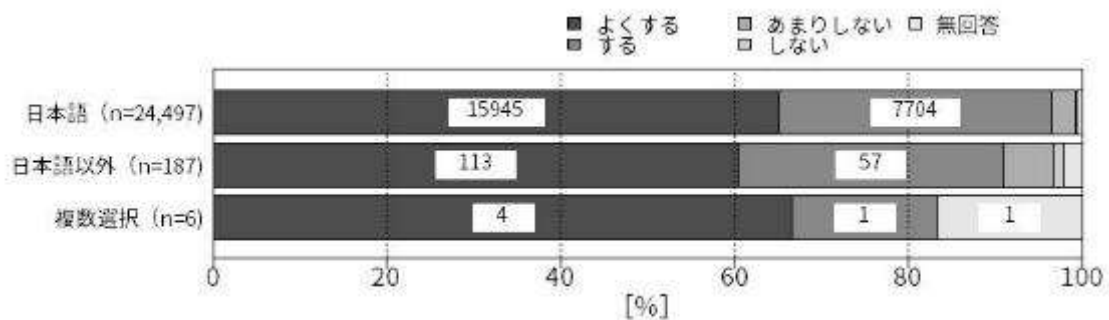
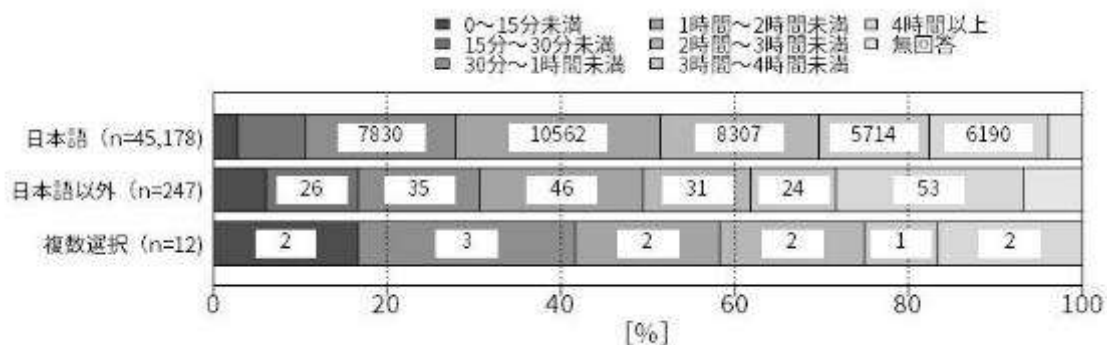


図 271. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

日本語を母語としない場合、子どもと会話を「よくする」と回答した割合が 60.4%であるのに対し、日本語を母語とする場合では 65.1%、日常生活で複数の言語を使用する場合では 66.7%である。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））（保護者票 問2×保護者票 問14(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

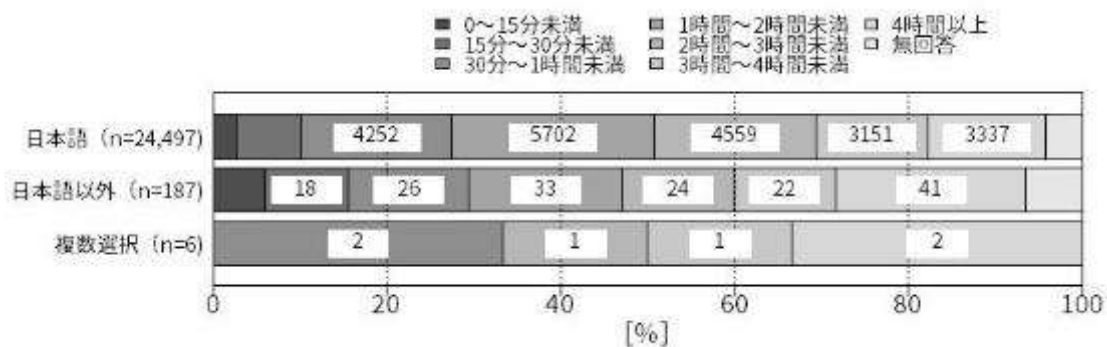
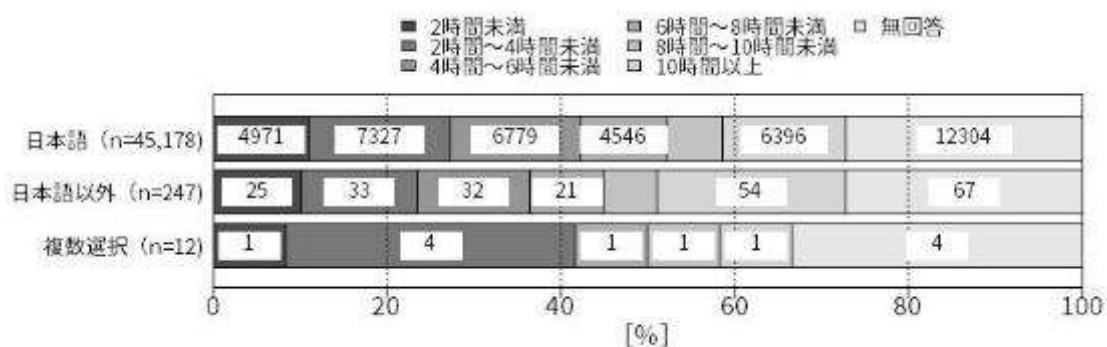


図 272. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

日本語を母語としない場合、平日に子どもと一緒にいる時間が「4 時間以上」と回答した割合が 21.9% であるのに対し、日本語を母語とする場合では 13.6% である。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））（保護者票 問2×保護者票 問14(3)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

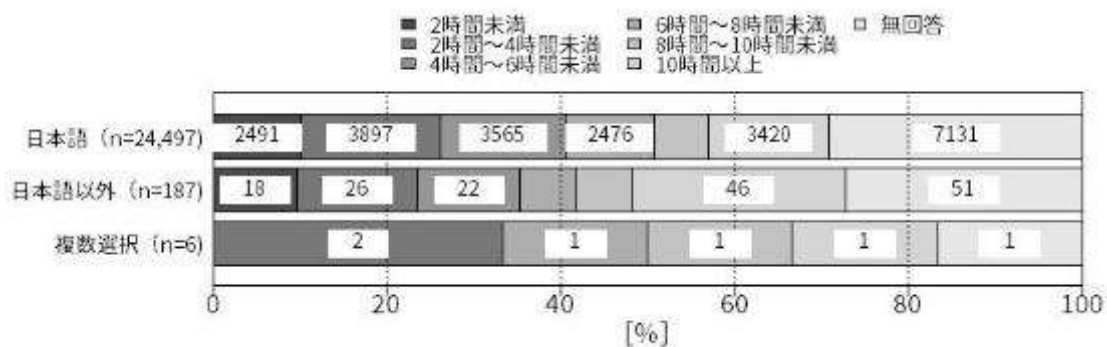
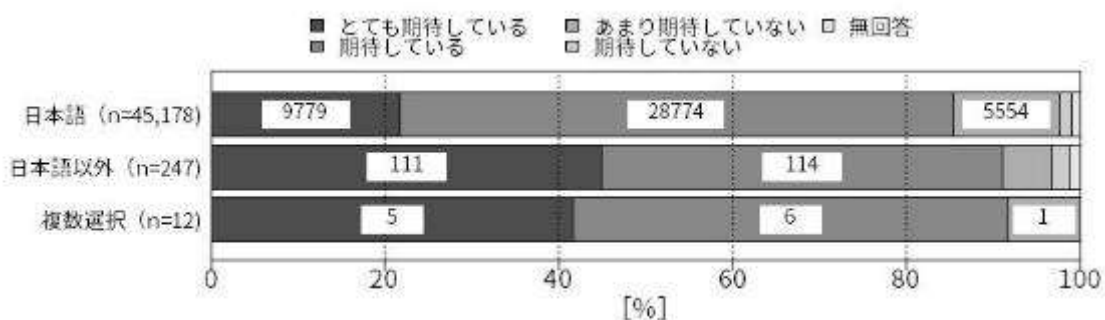


図 273. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

日本語を母語としない場合、休日に子どもと一緒にいる時間が「10時間以上」と回答した割合が24.6%であるのに対し、日本語を母語とする場合では14%である。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（保護者票 問 2×保護者票 問 14(4)）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

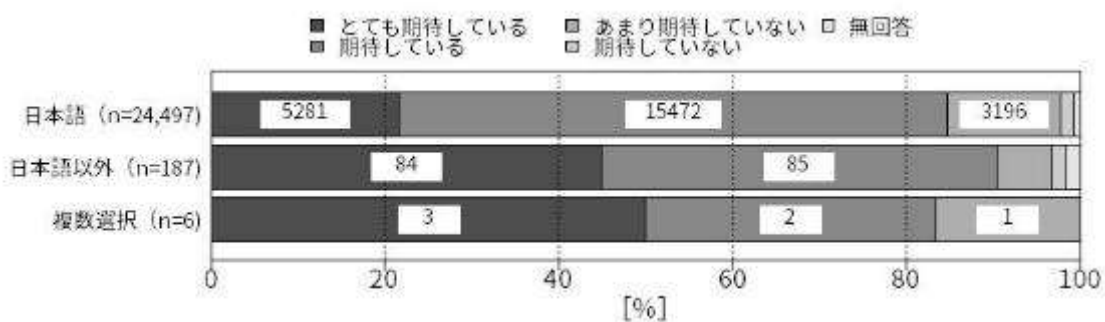
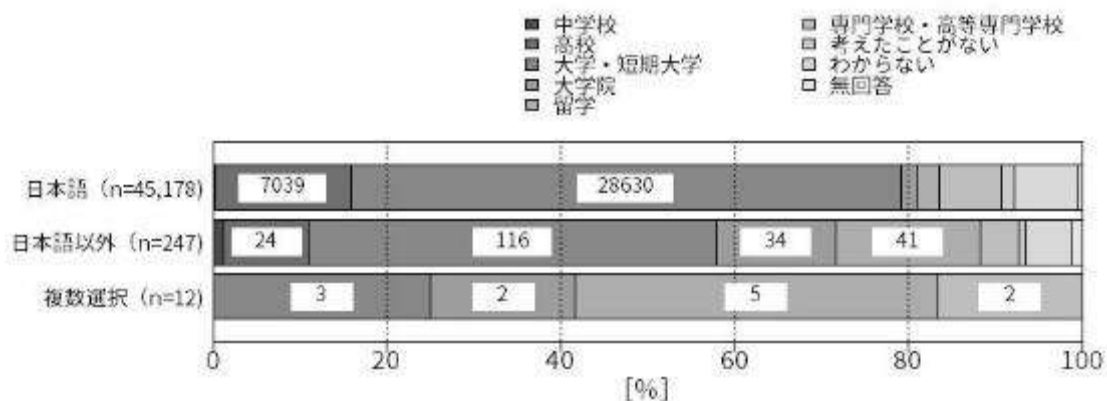


図 274. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

日本語を母語としない場合、子どもの将来を「とても期待している」と回答した割合が 44.9%であるのに対し、日本語を母語とする場合では 21.6%、日常生活で複数の言語を使用する場合では 50%であり、文化差の影響も考えられる。

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

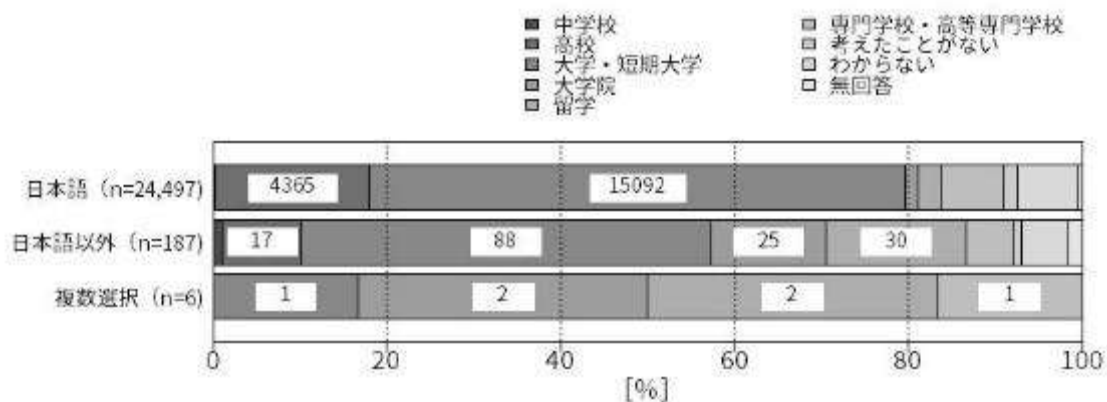
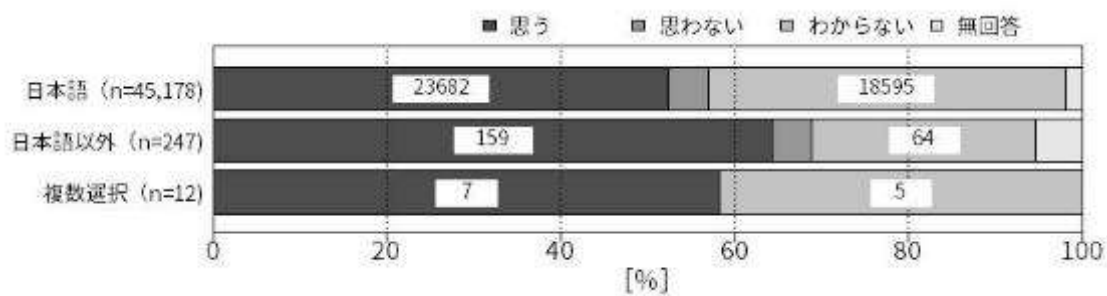


図 275. 日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先

日本語を母語としない場合、子どもの進学について「大学・短期大学」まで希望すると回答した割合が 9.1%であるのに対し、日本語を母語とする場合では 17.8%である。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測（保護者票 問 2×保護者票 問 16）

<大阪府内全自治体>



<大阪市 24 区>

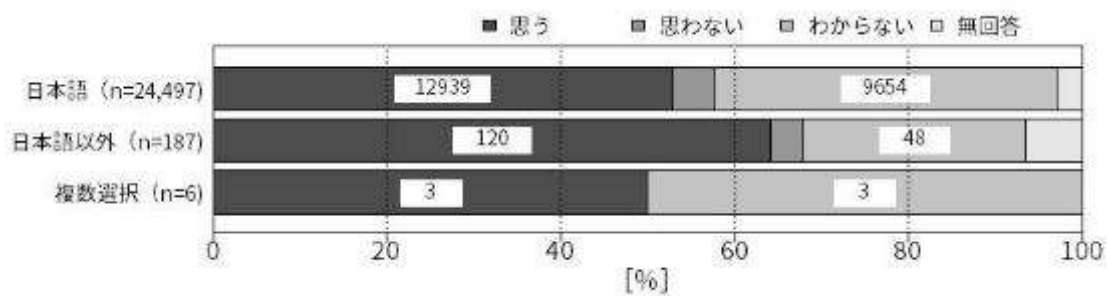


図 276. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

日本語を母語としない場合、子どもが希望する進学先まで進むと「思う」と回答した割合が 64.2%であるのに対し、日本語を母語とする場合では 52.8%である。